

エスペラント研究

JARO XVII N-RO 9

Internationales Esperanto-Museum in Wien  
Wien I, Hofburg, Batthyánystiege 3, Stock

LA PONTO  
KINTAI-BAŜI

# REVUO ORIENTA

1936

JAPANA ESPERANTO-INSTITUTO

SEPTEMBRO



エス運動・力點のおきどころ	393
實用第一主義	大谷正一 394
實にならぬエスペラント漫談(2)	高橋邦太郎 398
動詞 Fari の用法	小坂狷二 399
第24回日本エスペラント大會	402
北海道と東北の同志を訪ねて	岡本好次 410
Vandalisma Stormo tra Germanujo	423
内外エス運動報道	426

我國に於けるエスペラント普及・研究・實用の中心機關  
財團法人 日本エスペラント學會

東京市本郷區元町一の一三

—【電話小石川(85)5415番—振替口座東京11325番】—

世界エス運動の中心機關萬國エスペラント協會(UEA)に對し我國を  
代表する本會に入會され我國のエス運動を援助せられよ

目 的	エスペラントの普及、研究、實用
事 業	(a) エスペラントに關する各種の研究調査及其發表 (b) 雜誌及圖書の刊行及外國エス語書籍の取次 (c) 講演會講習會の開催及後援 (d) 其他本會の目的を達成するに必要な事業
會 費	(a) 普通維持員 年額2圓40錢 (b) 正維持員 年額3圓 (c) 贊助維持員 年額5圓 (d) 特別維持員 年額10圓以上 (e) 終身維持員 一時金100圓以上
維持員へは	La Revuo Orienta を無代配布する他當會發行新刊圖書の割引等をなす ことあり
本 會 の	普通維持員を除く他の維持員はすべて萬國エスペラント協會(UEA)の 普通會員(simpla membro)となる
入會手續	住所 職業 姓名(振カナ付)を明記し會費一年分を支拂へばよい

會則及發行及取次内外圖書目錄要郵券二錢

役 員 名 簿 (五十音順)

理 事 長 大石 和三郎	同 東部部長 土 岐 善 磨	理 事(常任) 三 石 五 六
理 事 井 上 仁 吉	同 醫 博 西 成 甫	同(同) 美野田 琢磨
同 元東北大校長 井上 萬壽藏	同 藤 澤 親 雄	監 事 醫 博 鈴 木 正 夫
同 上 野 孝 男	同 監督部長 前 田 穰	同 堀 眞 道
同 小 坂 狷 二	同 醫 博 望月 周三郎	同 清 水 勝 雄
同 中入教授 川原 次吉郎	同 柳 田 國 男	顧問 法 博 穂 積 重 遠
同 文 博 黒 板 勝 美	同(常任) 大 井 學	同 子 爵 三 島 章 道



# LA REVUO ORIENTA

## エス運動・力點のおきどころ

エスペラント語を一通り學習しエスペラント運動にも大いに共鳴したが扱まづ第一にどういふ風に努力したらよいか判らないといふ人がかなりあるだらう。

自分の學力はまだ幼稚だから専心エス語の勉強をやらうと考へる人もあらう。自分は語學の勉強が不得手だから一通り學力がついた上は専らエス語宣傳に全力をそゝごうと考へる人もあらう。自分は非社交的だから専ら獨學で研究して文學作品のエス譯か原作でも始めようと考へる人もあらう。

エスペラント運動は各方面の闘士を必要としてゐる。實社會の各部門におけるエス語の活用が最もおもしろい。それには各人が各々自己の職場に於て自己の天分を十分に發揮してエス語の活用をするのが何よりである。

山幸彦が海へ釣に行き海幸彦が山へ獵に行つたのではすべては無駄骨だ。宣傳の得意な人が不得手の講習指導で苦しんだり、講習指導が最も得意な人が不得手の宣傳に苦しむといった風なことは人物經濟の上から見て惜しいことである。

十數年前位まではエスペランチストの數も少かつたのでエスペランチストは誰でも一通りは講習の指導も文法の研究もエス演説も通譯も宣傳もといった風に何でもかでもやらなければならなかつた。併し今日はエスペランチストの數もふえたしエス語そのものも質的に向上したし宣傳の對象たる一般大衆の國際語に對する認識も相當進歩したから今日はもう一人でも何でもやる必要がなくなつたし又やることもむづかしくなつた。そこで適材が適所ではたらくのが必要になつてきた。

併しそういつてもエスペラントを少しやつた人々が自分が何をやるのに適してゐるか又一體エス運動（廣い意味の）にはどういつた部門があるかといった風なことについては皆目見當がつかぬ場合もあらう。

そこで T 氏のおすゝめで本誌前々號から「エス運動・力點のおきどころ」といふ subtitolo（脇見出し）をつけた論文を熱心な同志にかはるがはる毎號書いていただくことにしたのである。この記事は當分つゞけるつもりである。

だからこの連續記事は誌上での論戰を目標にしたのでもなんでもない。之を讀まるゝ同志諸君がエス語運動の各分野について深い認識をもつようになり（その上單に自分のやつてゐる事のみがエス運動の ortodoksa で、あとは邪道と考へたりすることがなくなるだらう）且つ自分自身最も共鳴できるものを見付けることが出來よう。そしてその結果自分自身最も共鳴したものに最も力をそゝがれることになるであらう。自身最も共鳴を感じたものは大體の場合その人に最も適したものである様だ。（もし萬一共鳴したものがその人に適しない場合はしばらくやつてゐる中に他のもつと適したものに興味を感じてくる筈だ。）

こういつた意味で「エス運動・力點のおきどころ」なる連續記事を載せてゐるのである。そのつもりでよんでいただきたい。又之迄まだ取扱はれてをらぬ方面について自分自身の意見を投稿されることをのぞむ。

尤も人手の少い團體の仕事に於ては必ずしも適材適所主義ばかりを云つてをられぬこともあることは云ふ迄もない。皆が勝手に樂な自分の好きな事だけやつてゐたのでは困る。併し或る程度は自分の適した方面の仕事に主力をそゝぐ様にする必要があると思ふ。 (J. O.)



# 實用第一主義

エス運動・力點のおきどころ・3

大谷正一

昭和7年盛夏、京都府福知山町の鐵道官舎の狭い部屋の一隅で、ラヂオのスピーカーの前に座り、若々しい進藤氏の聲で、ABCの發音を教つた其の瞬間から、現在に至る迄、私のエスペラント運動に對する主義は「實用第一主義」である。

宣傳、會話、海外通信、諸名士、新聞雜誌の利用等、何れも人體に於ける諸器官の如く、その何れを一つ缺如するも、エス運動の發達は到底想像し得べくもないが、私は、特にエス語の活用、實用に力點を置き、本日迄、文字通り、妻子すらも忘却して、戦つて來た。

だが、此の一文を草するに當つて、改めて、自分の此の主張を深く掘り下げて、微細に検討し解剖して見ると、私の所謂「實用第一主義」とは、言を換へて云はば「宣傳第一主義」に外ならないことを、ハッキリと氣付いた。「先づ宣傳」——此れが、現在未だ發達途上にある我がエス語の普及に於て、最重要のことである事に世界中のエス人中、凡らく異論のある人は、一人も無いことと信ずる。然し其の宣傳の方法にも種々な道がある。諸名士、諸刊行物の利用等、特に効果があると考へる。けれど、私は、その宣傳の唯一の手段として「實用」を強調する。

編輯者は私に「宣傳第一主義」の課題を與へられた。「實用第一主義」が私の持論なので、御期待に背き眞に申譯は無いが私の持論を歸納すれば結曲「宣傳せんがためには、先づ實用」と云ふ意味になるから其の點、編輯者に御諒解を願つて置く。

さて、以外に前置が長くなつたが、編輯者の御注文は、成る可く具體的に主張を説明せよとのことなので、もとより、袴着けた四角張つた論說など到底書ける柄でもないので、例に依つて、漫談調に、三十路越しても尙消えやらぬ例の私の「感傷音頭」をチョクチョクとまぜて、思つた事を遠慮せず、ズバリズバリと書いてのける。若し御氣に障つた人があつたら、「駄々ッ兒がむづかつてゐるんだ。泣く兒と地頭にや勝てまいて！」と考へて御寛恕を乞ふ。尙、編輯者の御注文通りに具體的に説明するためには、未だ學習後年淺く、經驗も少く又、ズツと田舎住ひのこととて交友關係も少いので、どうしても、自分の事を書くやうになり甚だ恐縮乍ら、これも豫め讀者に御寛恕を乞ふておく。

## 1) エスペラントは「語學」だ。

こんな解り切つたことを、今更麗々しく掲記すると、知人の仲には、私の頭が變に成つたのでは無いかと心配してくれる人があるかも知れない。だが矢張り「エスペラントは語學だ」と云ひたい。他の諸外國語の學習團體には凡らく見られないであらうと思はれるのは、エス語學習者の中に、随分と、此の「エスペラントは語學だ」と云ふことを忘れて了つて居るんでは無いかと、(他人様は知らず、少くとも)私には思はれる人が多數ある。「凡そエスペラントを使用する人は、その使用目的が何であらうと、純然たるエスペラント人」と云ふのだから、どんな人が存在しやうと勝手なのだが、少くとも、中立エス人として、又、エス語は未だ宣傳時代を脱し切らないと考へて居る私は、さうした「エス語は語學」と云ふ事を没却してゐるかに思へる人に、無關心では居られない。

「語學の眞の目的は、その語學を活用し、即ち其の語學を手段として、我の長を彼に與へ、彼



の長を我に採り、自己の分野に於いて」……と書くと固苦しいが、要するに、語學は手段なので、言語學者以外には、語學は窮極の目的では無い筈だ。ところが手段としての語學習得上、他の諸外國語は實に無價值だ。何故なら、或る一國の國語を習得して、完全に自分の物とし、活用するには、餘程、頭の善い人で無い限り、多年の日子を要する。が、其處に、エスペラントの生命がある。學習後、先づ一年、眞面目に勉學した者なれば、餘程の低腦者で無い限り、少くとも、自分の思つた事だけは外人と文通して通じられる筈なのだ。

2) 語學は手段だ。だから、その手段に、五年も六年もかかつて居るのは無意義だ——これが、私の、これからエス語を學ぼうとする人に、いつも云ふ言葉だ。短時日に可成りの程度迄活用出來得ると云ふ事がエス語の特徴であり又生命でもある。

そのエス語を學習せんと志望する人は、先づ此のエス語の特徴を充分利用すべく勉學努力すべきだと思ふ。

此處で恐縮乍ら、私の學習當時の勉學方法を書かせて貰ふ。ラヂオの講習が終了すると同時に、私は先づ、ラヂオと新聞とを中止した。月々講讀の雜誌二種類も中止した。これで、晝間の仕事の時以外は、私の眼には、絶対に日本語の書物は觸れぬやうになつた。次に最も大きな問題となつたのは、田舎住ひのため周圍に良き指導者の無きため、獨習上、參考書を、澤山揃へることだつた。現在でも貧しいことに於ては其の當時と少しも變りは無いが、丁度、七歳を頭に四人の幼兒を抱へて、収入は、普通の廿一二歳の中學校出身者の初任給と同額だつたので、月々生活することが既に想像もつかない程苦しかつた。その上に、毎月參考書を買ふ餘裕などある筈がない。餘裕の出來た時、書物を買つて勉強しやう——なんて氣持でゐたら、到底20年経つても、エス語を活用出來るやうにはなれない。語學を手段と考へる私に、そんな氣永い勉學をやるなら、始めよりエス語學習をやらない。それで、或る夜、妻に云つた言葉は、次の通りだ。或る人は嘲笑しやう。けれど、私には悲痛な氣持だつた。

「今日からエス語の學習を始める。學校も行つてゐない私には、どうしても何か一ツ外國語を習得し、それに依つて、擴く智識を海外に求めたい。他の外國語は習得難解で、長時日を要するがエス語は容易だと聞いてゐる。今後1ケ年間、新聞も雜誌もラヂオも止める、又、大變氣毒だが、月々の給料も殆んど書籍代に費ふが、どうだらう、向後1年間、何とかして勉強させてくれないか。1年間は夫、及父としての資格は無いが、恕してほしい」。

斯うして私の死にもの狂ひの勉學が始つた。食事中も用便中も、いつもエス語の書物を見續けた。毎夜、午前1時、2時頃寢に就くのは始終のことだつた。もともと強健な身體でも無し、疲勞も甚しく、時には12時頃になると、ホツとして、疑問を未解決のまま、今夜はこれで寢やうかと考へて、フト耳をすますと隣室で、妻が幼兒四人を抱へての晝間の激務にも拘らず、ゴトゴトと内職の糸繰車を廻してゐる音がきこゑる。毎月、一體どんなにして、やつてくれてゐるのだらう。妻の着物や、手廻りの品がいつの間にか姿を消してゐたことに氣付いてもゐた。「何クソツ！ 此の疑問を解決せずに、どうして寢たりなんか出來やう。こんな小さな疑問すらも解き得ずに疲れて寢て了つては、窮乏に不平も云はずに居てくれる妻子に申譯が無い」。

斯うした狂人のやうな勉學が一年續いた。そして、たとへ下手乍らも、外人と不自由なく文通出來るやうになつた。

「家へ歸つても子供が喧しいので、それに、勉學の本を買ひたくとも、どうも經濟的にネ……」と、云ふエス人がよくある。そして其の人は、學習後五六年になるのに未だに、初等講習書以外は、あまり讀まず、又讀んでも、ハツキリと解らないと仰言る。私はそんな時、皮肉な



笑を浮べる。その人よりも私の方が子供の數も多く、又、給料は私の倍以上月々貰つてゐる、そして、その人の奥さんは孔雀のやうに着飾つてゐる。「勉強出来るのでは無い、勉強する氣が無いのだ」と考へて、私は心の中で、ケイベツする。

### 3) 所謂 Movadisto を輕蔑する。

「あの人は熱心な人だ。エスペラントのためなら、どんなことでもしてくれる」と、云つた人がある。勿論、實に感謝すべき人なのだが、その仲には、よく、その技術は、學習後多年になるにも拘らず、未だ初等講習終了程度より出ないと云ふ人がある。斯うした人は、エス運動を、一つの宗教運動と考へてゐるとしか思へない。エス人は、いつもエス人の立場より物事を見る缺點がある。これはエス人に限らず、人間の通弊なのだが、一度、此處で自分はエス語を知らない人間として上記の、「熱心なるエス人」を、批判して見やう。

「彼奴は随分久しい間、エスペラント、エスペラントと云つて、他人を見れば、無暗矢鱈に、すすめて廻り、何だか始終その運動のために働いてゐるやうだが、一體、その國際語とやらを習得して、どんな點に於て、彼奴の仕事に、利益をもたらしたことがあるのだらう。彼奴の言分に依ると、エスペラントは實に學習容易で、學習後、短時日に於て、堂々と、自分の思想や意見を海外に發表したり出来ると云ふが、彼奴には一向、そんな事も無いらしい。困つた奴だが、まあ、ダンスやカフェー通ひをする道樂よりも、まあ、少しはいい方だから、捨てておくさ」。

此んな事を蔭で言つて居る人が無いとも限らない。世人は、いくら、エス語の有用性を説いて貰つても、如何に有用であるかと云ふ事實を具體的に示さなければ、今の世智辛い世の中では決して目前に物質的な利益の見えて來ない、退屈極まる語學々習に浮身をやつす氣になど、なれないものだ。此處に私の提唱する「實用が唯一の宣傳」と云ふことになる。

度々で恐縮乍ら、再び例を私にとることを恕していただく。

私は今迄随分と他人に學習をすすめた。だが、皆、御多分に洩れず中止して了ふ。苦しい財政の中から、書物や辭書を買ひ、母親が子供を、あやすやうにして、筆紙に盡し難いやうな努力を拂つたが、結局、無駄だつた。そして、それは、要するに「私の學習が未熟で、何等エス語の實用價值を發揮しない」ことに起因すると考へた。私は、無暗と他人にすすめなくなつた。そして益々勉學につとめた。すると、今度は向ふから、學習を希望する人達がボツボツと現れた。最初二三度は、心中ビクビクし乍らも、「決して退屈な語學獨習など續く筈がないから、始めから、無駄な努力を拂はぬがよい」と、軽く斷つて見る。勿論、「大谷如き學歷も何も無い男が、スラスラと書物を讀んだり、書いたりするんだから、私だつて出来得る」と考へて希望してゐる人なのだから、それでも習ひたいと、押して來る。さあ、此處まで來れば、決して、死んだつて離す私では無い。學習書、辭書當方負擔で、先方の都合のよい時なれば、たとへ夜中であつても悦んで行くと云つた意氣込だ。「エスペラントに關する限り、私は、ダニと同じです。もともと、無理だと云つてゐるのに、貴方の方から、きつと續けると約束されたんだから、今後、死ぬ迄、絶対に私は貴方に食ひついて離れない。さあ一緒に勉強ませう」。

告白するが、斯うした動機でやつても結果は同様で、直に、「仕事が多忙になつたから」「子供が生れたから」と云ふ。「人間、妻を娶れば子供も生まれまさら、又、働いて月々お錢を頂戴してゐる限り、多忙な時もありまさらね……」と、言ひ度くなる。多忙で時間が無いと云ふ人に、私はきまつて訊ねる。「貴方は毎日一回は厠にお行きになりますか?」「えゝ」「では、せめて其の間だけでも、折角始めた學習なのだから、書物をお讀み下さい」。



けれど、自分から希望して、途中で中止した人々は、無理にすすめられて、途中で止めた人のやうに「エス語なんて、つまらない」とは云はないだけでも結果はよい。その人は自己の忍耐力の無かつたことを恥として、永久にエスペラントへの好意を失はない。

筆が傍道に外れたが、「熱心なる運動家であり同時に、或る程度迄エス語を活用する人」でありたいのが私の念願である。その何れかの一方だけであつても私は輕蔑したい。エス語を自由に語り、自由に書く、だが未だ一度も雑誌等へ書いたものを發表したことは無く、運動方面には全然干渉せぬ——と云つた人があつたら、これも困りものだ。

此の意味で、東京等の大都會に住んでゐる人は、「單なる Movadisto」と成つてしまふ危険があると考へる。初等講習を終了すると直ぐ、會の仕事に仰せつかふ。やれ講習會開催準備、やれ會話會準備、聯絡係、圖書取次と云つた具合で、學習の方がおろそかになりさうだ。

4) **エス語を利用して、先づ何よりも、自分の現在の仕事の分野に於て、ドシドシと實用すること。これが大きな宣傳となる。**

私の現在勤務中の滿鐵には1ヶ月二回發行の「協和」と云ふ堂々たる社員雑誌がある。私はこれに入社後1年間に、五六回翻譯を投稿した。さうした場合、先づ私は、絶対に最初は、エスペラントの事を書かない。世界の小國の作品ばかりを故意に選んで掲載しておく。すると、二三回掲載後には編輯者も讀者も好奇心を持つてくる。如何に天才的な人間でも、そんな小さいヨーロッパの國々の言語を、五ツも六ツも習得出来るものではないと皆考へる。其處で期を見て、エスペラントを、宣傳する。その時に人は、きつと、成程、エスペラントは有用だとの感銘を深くする。もつとも此の方法は誰にでも良い方法とは云はれないかも知れない。だが、私の立場では、これが、最も有効だ。エスペラントをドシドシと實用してゐる私を見て、大抵の人は驚いてゐる。これに就ては、私の貧しい地位が、餘程エスペラントの宣傳に役立つてゐる。學歷も無く、地位も低く、いつも人に使はれて隅の方に小さくなつて、毎日、コツコツと仕事をやつてゐる男。その男が雑誌其他の刊行物に、世界各國の作品を翻譯してゐる。一體、どうして、そんな殆んど不可能なことが有り得るのだ。……ナニ、「エスペラント」をやつてゐるツて！フーム、エスペラントと云ふものは、成程便利だ……と來る。實用——即宣傳、これが其の所以である。

エス人各自が各自の分野に於て、エス語の實用價值を如實に示すこと(勿論、そのためには、各自が死ぬ迄、勉強し續けることが必要)——これが力強い宣傳だと考へる。そのためには勿論、會話の練習、海外通信、あらゆることに、精一杯の努力を拂はねばいけないと思ふ。

最後に日本人同志間に於ける會話文通に就ての愚見を加へておく。

「日本人とは日本語で、外國人とは國際語で」此のことを固く守つてゐる私だが、エス人に對しては私は次の言葉の通り守つてゐる。

「私はまだまだ初學者ですから、文通も會話も全部エスペラントでやります。もつともつと、あらゆる機會に於て練習したいからです。私が自分で、可成り上手になつたと考へるまではエスペラントで通します。それに、エス人のみが集つて、日本語で、エス語關係以外のことを語るなんて意味の無いことと思ひます。けれど、エスペラントでなければ、カフェーの女給の品定めをやつたつて、きつと、一ツや二ツの新しい單語や、表現法を相手より教はることがありますから。この意味に於ても、私は、エスペラントで通します。」

例に依つて、一氣可成に書上げたので、一體何を云つたのか自分でも解らないが、御推讀を乞ひます。(昭 10. 7. 17)



## 實にならぬエスぺラント漫談

(2)

高橋邦太郎

**赤露人、白露人**——大正4年ハルビン、ウラジオにて同志に歓迎された頃は恰かも歐洲大戰中で、彼等露人は偶ま西部戦線より有利の情報が入つたとて狂喜雀躍した位であつたから、何れも caro の政治を謳歌してゐる者の様に見えたが、今から考へる其頃已に革命の氣運が萌して居ないでもなかつた。然し當時は赤露白露の言葉さへなく、我等は一視同仁 rusoj とのみ考へて彼等と友情を温めた。然るに一旦革命勃發するや逸早く上海邊に亡命せる同志あり、行衛不明となれるあり、中にもウラジオのエス會長 Vonago 氏の身の上に就ては、詳報を得た丈に實に同情に堪へない。革命の結果彼は財産を沒收せられ、命からがら夫人と共に上海に逃亡し、同市の銀行にて僅計りの預金を引出し、海路大迂回して祖國ポーランドのピアロストカに歸り着き、同地にて裁判官に任命された。此通信に依り彼は露人でなく我が majstro と同郷人であつた事を初めて知つた。

**愛兒檢束**——ポーランド國獨立以來ソ國在住の同國人は一體に此様に迫害されたのか、或は V 氏に限り特別の理由があつたのか、獨り財産の沒收のみならず愛兒(當時 20 歳)が檢束されウラジオに幽囚の身となつた。これに就いて V 氏は一方ならず心配し、如何にして之を救ひ出すべきかを知人の外交官に尋ねたら、日本官憲の力を借るに限るとの事故盡力を頼むとの來狀、微力の老生連も六つかしいと思ひながら外務省に歎願書を提出し、一方ウラジオの我總領事宛の書面を認め、之を然る可く利用せよと V 氏に申送つたが、其後どうなつたか知らぬ。

**これも白露か**——又露國 Ufa 市に N. Foss と云ふ獸醫があつた。20 餘年前男子出生の時、波の希望に應じ老生其名付親となり、我産衣を贈つた位の親しい間柄であつたが、革命の當時ウラジオまで出征したらしく、其後歸宅した所先祖傳來の家寶は申すに及ばず財産悉く掠奪されてあつたとの通信。此人は所謂白系なるが爲め斯る憂目に逢つたのか、それとも V 氏と同じく純露人でないのか、其後當方より二三回通信したが彼よりは音信全く不通となつた。

**Esp. と醤油**——Japana Esp-isto 誌の末尾に毎號掲載された唯一の廣告はあねさま冠りにたすきの美人が盆の上に銚子産のヒゲタ醤油一瓶を載せたのを持つてゐる寫眞であつた。其廣告に依り前陳の F 氏が注文して數瓶を購入し、之を親戚知友と共に味つて見た所最初は何れも其特有の香に辟易したが、段々慣れるに従ひ、毎食無くてならぬ食料品となつたとて、追懸け注文を老生に頼んで來たのは大正 3-4 年の頃であつた。丁度其際の在住地廣島にも相當の醤油醸造所があつたから、其主人に話した所、そんなら廣告の爲め寄贈しやうと云ふので早速數瓶を發送した。其れに對する禮狀に添へて來た寫眞を見ると、三四歳の愛兒にツンツルテンの日本産衣を着せ、半身大の醤油瓶を抱かせた珍奇な記念物であつた。

我國では洋食と云へばソースでなければならぬ様に考へられてゐるのに、外國にて却つて我醤油を賞味する實例のある事は注意すべきであるまいか。英(佛)語の soy は我醤油から轉訛したものとさへ言はれてゐる位なのに、何故我醸造家、洋食店の經營者或は洋食嗜好家中ここに着眼する者一人もないのであらうか。躍進日本の商工業者の一考すべき問題である。

(以下次號)



## 動詞 FARI の用法

( 6 )

K. OSSAKA.

§ 4 (d) „Fari“ kiel „pro-verbo“ (anstataŭverbo) 『代動詞』用法

Apud „pronomo“ ni ankaŭ devus havi „pro-adjektivo“, „pro-adverbo“ kaj tiel ankaŭ „pro-verbo“. Efektive ni havas:

Mi renkontis mian amikon kaj mi *lin* (=tium amikon) salutis. [*Pronomo*]

Mi vidis belegan bildon. *Tian* (=tiel belegan) oni tre malofte trovas. [*Pro-adjektivo*].

Vi parolis al li insulte en la publiko. Nekonvene estas *tiel* [=insulte] paroli. [*Pro-adverbo*]

En angla lingvo kiel „pro-verbon“ oni uzas la „helpan“ verbon „to do“:

Did he go? — Yes, he *did* (=went). En Esperanto ni uzas „fari tion (aŭ tion ĉi, aŭ ĝin, aŭ tiel)“:

Li intencis veturi eksterlanden, sed pro la malsano li ne povis **tion fari** (=veturi eksterlanden). 外國へ行くつもりで居たが病氣で行かれなかつた。

## EKZERCAJ EKZEMPLOJ

La maljuna sinjoro, kiu estis rakontinta, ĝuste en tiu momento intencis eliri tra la pordo kaj **faris tion** (=eliris). (FIII 83/10) 語り了つた年寄は丁度その時戸口を出やうとしてゐたのであるが、(實際そのまま)出て行つたのであつた。

En la lagon li ĵetadis orajn monerojn anstataŭ ŝtonetoj. Tiamaniere la mono kompreneble povis malmultiĝi, kaj **tion ĝi efektive faris** (=efektive ĝi malmultiĝis). (FI 127/8). 彼は小石の様に金貨を池に投げ込んでゐた。さうすれば金はへるわけであるが、實際減つて來たのである。

„Mi kisas al vi la manon“ — kaj **tion ĉi li efektive faris** (=efektive li kisis). (BV 13/-4) 『御手をキスします』——そしてほんとにキスしたんである。

Bojas hundido, ĉar **tiel faras** la hundo. (P 1086) 見様見真似(親犬が吠えるので小犬も吠える)。

Clemency rapide leviĝis. Ankaŭ sinjoro Britain **faris tion saman** (=leviĝis) kaj salutis la gaston. (BV 69/7) クレメンシーは立ち上つた。ブリテン氏も立ち上つてお客に挨拶した。

Kaj li mem intencis sidi en angulo kaj dormi sur seĝo, kiel li ofte **faradis** (=dormadis tiel) antaŭe. (FI 12/-8) 昔よくさうして眠つたものだつたが隅つこに坐つて椅子の上にねやうとした。

Kaj mia edziĝo estas instrua leciono por ĉiuj kampuloj, kiuj volas leviĝi super sian staton kaj edzoliĝi kun domo de nobelo, kiel mi **faris** (=edzoliĝis)! (GD 5/5) 吾輩の結婚は吾輩がしたやうに身分以上に成り上つて貴族の家と縁組したがる田舎者へのみせしめだ。



Alĉjo eksentis preskaŭ nereteneblan deziron alte salti kaj ekkrii: victoria! Li tamen faris nek la unuan (=ne saltis) nek la duan (nek ekkriis). (M 165/-9) アレさんは思ひ切りとび上つて『萬歳』と叫びたい殆んど押へきれぬ氣持ちになつたのだが然し實際にはとび上りもせず又叫びもしなかつた。

§ 4 (e) Verbaĵ frazeroj el „fari“ kun prepozicio.

{ Fari ion kun iu aŭ io=iel trakti iun aŭ ion 處分する、扱ふ  
Fari ion kontraŭ iu aŭ io=kontraŭmeti ion aŭ kontraŭstari kontraŭ iu aŭ io. 反抗する、手向ふ

### EKZERCAJ EKZEMPLOJ

Kion mi nun faru kun la sensenca kesto? (=Kiel mi traktu la keston?) (FI 11/19) 此のくだらぬ箱をどう處分しやう。

Kaj li faru kun la bovido, kiel li faris kun la propeka bovido. (LV 4-20) 贖罪の贖を處分したやうに此の贖も處分すべし。

Komp.: (Venu) ĉi tien kun Zemlanika! (Rt 10) ゼムラニカを召しつれえ。

Kiu ludas kun koto, malpurigas la manojn. (P 565) 泥を弄ぶ者は手をよごす(朱に交はれば赤くなる)。

Mi tute ne scias, kion vi volas (fari) kun via Snitchey. (BV 30) Sさんをどうしやうとなさるの。

Mi ne scias, kio fariĝis kun li. (Er XXXII) 彼はどうなつたかわからぬ。

Estis kun li tiel same kiel kun la ministro. (FK 21) 彼も(御多聞にもれず)大臣の場合と同じであつた。

Sed oni scias ankaŭ agi kun ili juste. (GD 40/-7) そいつ等を先づ相等な扱いをしてやること位は知らぬこともない。

Sed kun tio ĉi mi nun havas nenion por fari. (BV 21/-1) 今の處(これを取扱ふべきゆはれがない)これとは關係する處はない。

Mi nenion kun li povas fari, ĉar mi vidas, ke li mem scias ĉiujn leĝojn parkere kaj havas ilin ĉiam sub la mano. (FK 79/-5) 何せあいつの方が法律を悉く暗んじいつでも法律の小出しがやれるんだから奴をどうしやうもなかつた。

Oni nenion povas fari kontraŭ tio (=oni ne povas kontraŭstari al tio.) (GD 40/-9) どうにも仕方が(拒みやうが)ない。

Nu, ĉu ĝi estas mia kulpo? Kion vi volas, ke mi faru kontraŭ tio? (GD 25/10; ank. vd. Rt 40/12; Rt 66/2) だがそれや私のせいですか。どうしろとおつしやるのです(どうにも仕様がなひではありませんか)。

Kion povas fari li sola (=Kiel li sola povas kontraŭstari) kontraŭ cent dudek homoj? (FK 105/7) 彼一人では百二十人の人に手向つて何が出来るか。



## TRADUKAJ EKZERCOJ I.

1. 火を起して茶をいれなさい。
2. 彼は松原の中に庵を結んで死ぬまで其處に住んでゐた。
3. 神は己が姿に似せて人間を造つた。
4. 此の靴は誂へて造つたのか——寸法を合はせて造つたのです。
5. 日本人は紙で色々なものを造る。
6. 詩を作るより田を作れ。
7. 今一つあると十になる。
8. お前に洋服を拵へてやらう。
9. メめていくらになりますか——メめて百圓。
10. 機會は盜人を作る。
11. 子供はシャボン玉をこしらへて遊んでゐた。
12. 煉瓦は粘土で作る。
13. 私は自室へ退いてくつろいだ。
14. 切なる願ひに御利生の無いとは如何なる報いぞや。
15. 出来るだけの事は致しました。
16. するだけの事は致しました。
17. まだ色々用事がありますので出發までにお目にかかりますまい。
18. 己の欲せざる所を人に施すこと勿れ。
19. 當然の事をしたまでです。
20. 浪で舷に大きな割れが出来て船は海底へ沈んだ。
21. 彼等は世にも愚な事をしたものだ。
22. 彼にそんな物をやるのは猫に小判だ。
23. 最初の機關車を作つたのは誰。
24. 多數者が少數者に對し強引に出るのはみつともない。
25. 白晝しかも帝都の真中でかかる兇行が演ぜられたのには皆驚いた。
26. 何もしやせんから安心して此處へ來い。
27. 新聞記者は針小棒大な報告をすることが多い。
28. 艱難汝を玉にす。
29. 眠不足をすると毒です。
30. 安眠したので病人は元氣が出た。
31. 此の捕虜をいかが致しませう。
32. こんな馬鹿はどうにも仕様がなない。
33. あんな口先のうまい奴にかかつてはどうにもならん。
34. おれを子供扱いにしやあがつた。
35. 死ぬ死ぬと云ふ奴に死んだためしがなない。
36. 沈香も焚かず屁もひらず。
37. あの人のやることは萬事下品だ。
38. 君はやろうと思ひさへしたらやれたのだ。
39. 諸君が卒業後第一着手としてなすべき事は日本エスペラント學會に入會し R. O. 誌を通じてエスペラントを補習することにある。
40. 日本人らしくもない行をしたものだ。

衆議院議員並に衆議院議員  
立候補者のエス語に関する意見

(四六判 38 頁八ポイント組)

今春の總選舉の代議士候補者及びこの 7 月に再度代議士へ問合せた回答(百數十氏)をあつめてパンフレットにしたもの。御利用下さい。

1 部 1 錢・送料 2 錢  
(10 部以上送料不要)

日本エスペラント學會

學會主催エス語講習

★ 初等科

日時 9 月 21 日から二ヶ月間  
毎週 月、木 午後 7-6 時

★ 中等科

日時 9 月 22 日から二ヶ月間  
毎週 火、金 午後 7-9 時

會費 各料共 全期 3 圓(學會々員 2 圓)前納のこと。

[詳細規則書請求のこと]

日本エスペラント學會





日本エスぺラント大 紀念撮影  
Congreso de Esperanto





第二十四回日本エスベ

La XXIV-a Japana Ko





大會に際して札幌郵便局で作ったスタンプ

## 第 24 回

## 日本エスペラント大會議

8月8-10日札幌市で開催さる

北海道で初めて開かれるエス大會議。北海道の同志が一日千秋の思ひで待ちに待った大會議が近づく。

## 展覽會

大會議の前奏曲として8月5日から9日迄エス展覽會が丸善支店で開かれる。夏休みで暇のある三笠山村の細井氏や志文の岡本氏等も4日頃から札幌へ来て手傳はれる。晝間勤務のある同志達は夜をつかつて準備に忙しい。展覽會は毎日三百人の入場で相當效果をおさめた。こゝで大會議後の講習申込の受付もする。大會議普及講演會と講習會のビラをくばる。

## 郵便局の大會議記念スタンプ

8月8-10日にわたって札幌郵便局でエス大會議記念スタンプを作製してくれた。これは日本大會議としては初めてのことで大成功であつた。

そのスタンプはこの頁のカットに入れたものである。

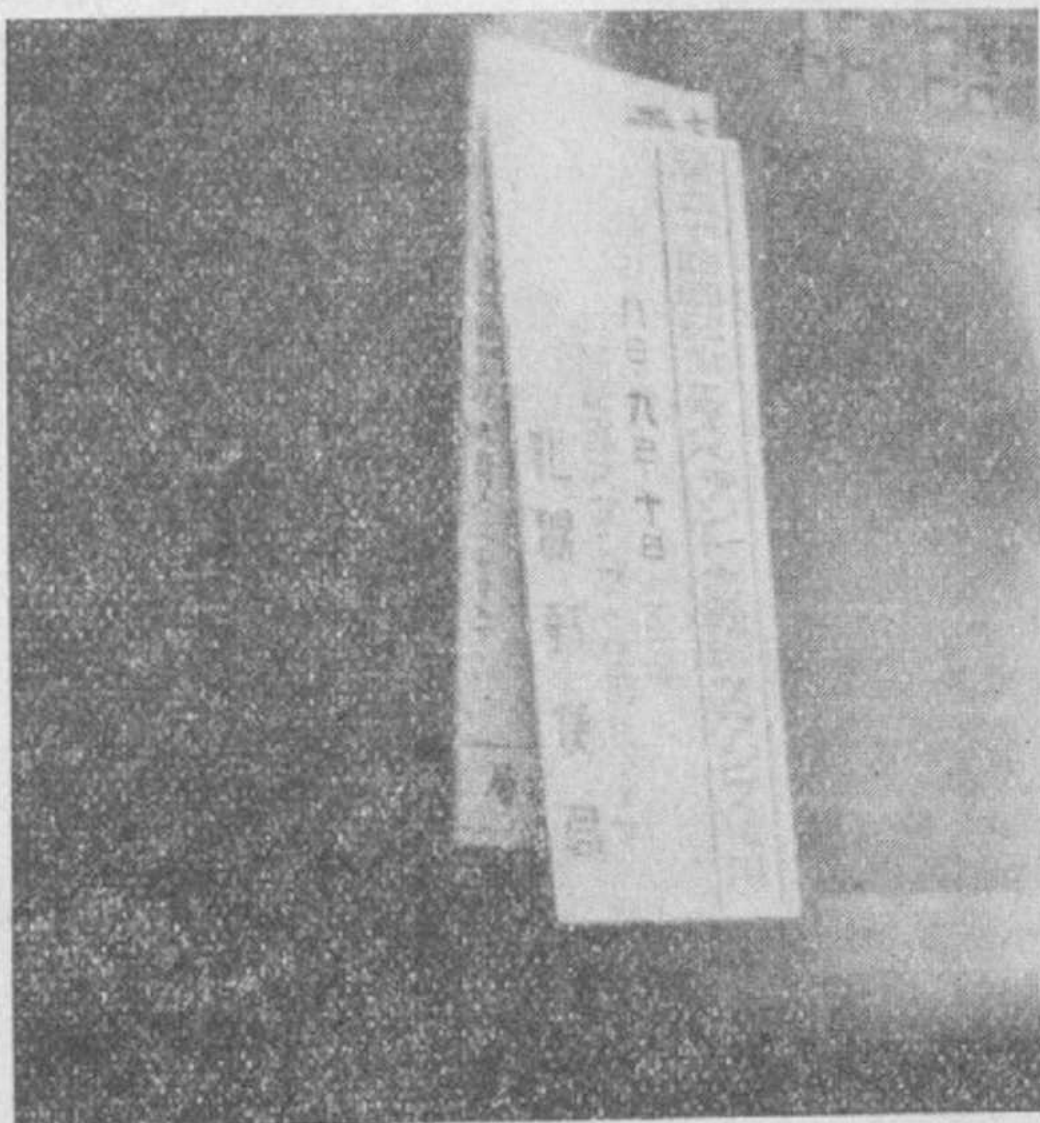
初めエスペランドと入れて官報にもそのまま發表されたそうである。しかしすぐ訂正され局の方でもスタンプをけづつて間にあはせたいらしい。

8月10日の夕方郵便局へいつてスタンプ利用の数をきいてみたが局員は「概數もわかつてゐない。併し昨日(第二日)は一日二人の局員がかゝりきりでスタンプをおしてゐたから相當あつたらう。大抵普通の紀念スタンプだと一萬五千位にはのぼるのだが今度は特殊だからどうだつたでせうか。地方から手紙での申込にも應ずるのですからこれらも相當にの

ぼるでせう云々」といつてゐた。

記者は大會議前北海道各地を學會特使として訪問。8月7日午後3時14分札幌着の列車で苫小牧から渡邊氏夫妻岡垣氏新田氏菅原氏等と到着する。數名の方々が出迎へて下さる。その中に小樽の福田君東京の青木君もまじつてゐる。合宿中村屋旅館へゆく。

今度の大會議で一番何よりも便利だつたことは驛と合宿と大會議場とが徒歩數分の近距離にあつたことである。大抵どこでもこんなに好條件のそろふことはない。大會議場と合宿とは大抵近くにあるが驛の近くにあるといふことは必しものぞめない。札幌は三つがそろつてゐたので實に氣持がよかつた。展覽會場も近かつた。



札幌郵便局前の大會議記念スタンプについての立看板

今後の大會議も、この點を意識的に考へて aranĝi されると一層 komforta であらう。

合宿へは青木君福田君菅原君と同宿するわけである。まづ展覽會場へゆく。岡本氏細井氏その他の同志が陣どつてゐる。帶廣の沼田氏にあふ。今晚は他にとまるが明晩は合宿へゆくといふ。相澤、福田氏等としばらく歩いて宿へ歸る。その中にどやどやと大勢でやつてくる。大會議常連の野原、進藤、川崎、山本四氏、東京の磯崎、蔡(中華民國留學生)兩氏である。急に賑かになつたので大よろこびであると野原氏だけが合宿されるのみで進藤氏はグランドホテルへ川崎氏は別の旅館へ磯崎氏等は知人の所へとそれぞれ行つてしまふ。あとで進藤、川崎氏等がやつて来て夜おそく迄



話す。山本氏も知人の所へゆく。

夜はいよいよ五人で寝ることになった。

8月8日(第一日) 天気晴朗。この分だと  
大會中上天氣かもしれない。7時16分の汽車  
で帶廣の一團が来る。7時44分で東京の三宅  
氏、山崎氏、横濱飯田氏等が来られる。合宿  
は賑やかな色どりをもつてくる。

一汽車毎に同志が集ってくる。

午前10時頃 大會々場グランドホテルへ行  
く。賣店を出したり仲々いそがしい。

各地の同志が續々やつてくる。記者は大會  
前各地でおあひした人々が多いので何時もの  
大會よりもよけいなつかしい。

東京からの karavano の一行十數名が 12  
時14分についたのが殆んど殿であつたらう。

受付の諸氏諸嬢は  
テンテコ舞だ。

### 大會發會式

豫定より 30 分  
おくれて 13 時一  
同着席來賓顧問 9  
名は演壇に著席さ  
る。木村喜壬治氏  
の開會宣言によつ  
て大會の幕はきつ  
ておとされた。

君が代齊唱

大會準備委員長  
相澤治雄氏の挨拶  
があつて大會會頭  
に高瀬正榮氏の推  
戴をはかり滿場拍  
手で賛成。

高瀬會頭の挨拶。  
エス語で堂々  
數千言を用ひたもの。滿堂をして傾聴せし  
む。

ついで會頭より書記の任命をはかりそれぞ  
れ任命さる。

Espero 齊唱

札幌市長の祝辭(教育課長 筒井銀平氏代  
讀)。好例によりエス語を禮讀したもの。つ  
いで各地方會代表者其他の挨拶あり。

日本エス學會  
北海道エス聯盟  
九州エス聯盟  
横濱エス協會  
北勢エス聯盟  
飯塚エス會  
大阪エス會

三宅史平氏  
福田仁一氏  
野原休一氏  
飯田龜代司氏  
吉岡登良男氏  
花村秋義氏  
進藤靜太郎氏

國民速記協會  
留日中華世界語學會  
東京鐵道エス會  
エス文學研究會  
名古屋エス會  
旭川エス會  
甲府エス協會  
北陸エス聯盟  
東京エス俱樂部  
帶廣エス會  
日本鐵道エス聯盟  
婦人エス聯盟  
小樽佛教エス會  
小樽エス協會  
海員エス會

片山正子嬢  
蔡利斯氏  
高橋菊藏氏  
大崎和夫氏  
竹中治助氏  
川名正二郎氏  
立石隆氏  
渡部隆志氏  
原田三馬氏  
菅沼寛氏  
青木武造氏  
萬澤まき子氏  
岡崎英肇氏  
坂下清一氏  
高橋要一氏  
苦小牧エス會  
岡垣千一郎氏  
札幌エス會

小森政雄氏  
札幌エス會

浪越春夫氏

いづれおとらぬ  
エス界の闘士それ  
ぞれの特徴をもつ  
た流暢なエス語で  
saluto をされた。  
近年日本語での  
saluto があとをた  
つたのもエス語の  
進歩をしめすもの  
だ。

祝辭祝電の朗讀  
があつて Tagigo  
齊唱を以て發會式  
を終る。



發會式高瀬會頭挨拶

紀念撮影——會場入口にて。(10頁に掲載)

### 日本エス學會總會

15時半より議長に渡部隆志氏を推して總會  
に入る。

岡本書記長より過去一年間の事業報告及會  
計報告をなす。

議長より質問ある向の發言をもとめる。

進藤氏全般の問題につき質問。

まづ理事會及評議員會の仕事について報告  
がほしい。

エス運動後援會の設立は學會が宣傳運動の  
責任をさける様に外部にみえる。後援會の如  
きをつくらず學會の宣傳部がこの仕事をする  
方がよいではないか。後援會は金のあるもの  
だけ運動すればよいといふ様な考へをおこす



様なことになりはしないか。

出版部の業績について今後数字をあげて発表されたい。

UEA の kotizo は特別會計を設立して處理しては如何。

地方會の書籍取次販賣についてどう考へるか。時々特賣をやるゝことは地方會として困る。

岡本書記長より答辯。

理事會評議員會の議事の詳細は R. O. へ出したいが一般會員が興味をもたぬので困る。而し出来るだけ発表したいと思ふ。唯總會の如きは多忙にて理事が出席できぬので困る。

後援會は別に學會の仕事をうばふのではなく學會でできぬ宣傳をやつてもらふためのものである。幹事が決議するのだ。しかし幹事會でできたものはすべて學會事務部で實行してゐるので學會と異身同體といふべきもので決して邪魔ものではないばかりかこのため豫想以上の活躍をしてゐる。

出版部の獨立した報告は理事會等へは毎年提出してゐるもの故希望があればいくらでものせてよいと思ふ。

毎年 R. O. で報告してゐる會計報告を十分御覽になれば出版部の報告は相當明確に出てゐるのであるが他の部分とまざつてゐるため氣づかぬのであり。その中に獨立したものの發表を三石理事にやつてもらひませう。

UEA の kotizo の事は考慮ませう。

地方會の圖書取次は大いに獎勵したい。特賣についてもなるべく地方會へ迷惑をかけたくないと思ふ。

ついで磯崎巖氏より質問。

昨年大會の時の學會總會でできた進藤氏提案の學會内に宣傳の組織的機關をつくる希望案はどう處置されたか。

岡本書記長より答。

その宣傳組織については進藤、三宅、自分の三人に委任されたのであつたが運動後援會

が出来るとき理事會に進藤氏の具體的意見についてのべたのであつたが遺憾ながら後援會と同一の性質のものだといふのでその案については考慮せられなかつたのである。自分も進藤氏の案と後援會とは方法が多少ちがふが目的が同一だと思ふ。

磯崎氏——總會の決議を尊重されたいと思ふ。その前後處置として後援會を學會宣傳部に變更する意思はないか。

岡本——自分としては責任を以て答へられぬが後援會設立については全國二百數十氏の賛同でできたものででき上つた以上理事會が勝手に宣傳部に變更できぬと思ふ。

進藤氏——この事につき理事會に考慮を促す意味の決議をしていたらきたい。

議長採決の結果可決。

花村秋義氏——總會には理事を出席せしめよとの意見をのべる。

三石理事——理事會代表としてでなく理事の一人としてお話しするのべ種々事情をのべる。

磯崎氏——次に全部まとめて質問する。

1. 支部設立についての學會の態度

2. 學會と UEA との関係
3. LK の活動について
4. 學會今後の活動方針

岡本書記長——時間もおそくなつたから簡單にお答したい。

1. 支部については北海道各地で説明したが支部設立について學會でものぞんでゐるが維持員 10 名以上の土地が少い。

2. 學會と UEA の関係は學會を代表して進藤氏が UEA の委員になつてゐるから進藤氏にお尋ね願ひたい。

3. LK の活動は學會と直接関係がない。(個人として別の機會にお話しませう)。

4. 特に今後の方針といふものはないがどこまでも宣傳につとめたいと思つてゐる。

大分時間がたつたのでこれで總會がとちら



展 覽 會 場 景



れた。

### 大會協議會

17時半より協議會にうつる。高瀬會頭より協議會議長として福田仁一氏を推す。

福田氏議長席につく。書記數名任命。

大會規約起草委員會の報告を進藤靜太郎氏がなす。

昨年的大會の科學分科會が大會からもらった補助金の使途につき報告(高橋書記代讀)。

同じく補助金をうけたエス文學研究會につき三宅史平氏より報告。

同じくクリスターナ分科會について渡邊隆志氏より挨拶。

磯崎氏より他の委員會の報告がないかとのべ

進藤氏より中等學校へエス語導入の委員會は大本事件のため全く不明とのべる。

磯崎氏より來年の東京での大會の準備委員會の報告はないかとのべたが誰ものべるものなき故準備委員會は怠慢だから *riproco* の決議をせよとのべる。(進藤氏賛成)。

岡本氏より大會準備委員會がまだ十分會合をもつてゐないが仕事は全然してをらぬわけでない。しかし全委員會が開かれてをらぬとのべ *riproco* の決議をされることはおだやかでないから引こめてもらひたいとのべる。

磯崎氏が *riproco* はひつこめる旨のべ本大會の空氣を準備委員會へとりつがれることをのぞんだ。

次いで議案について審議。

**第一提案** 日本放送協會に對し第24回日本エス大會の決議を以て JOAK より全國中繼にてエスペラント講座放送をなるべく速に實現さるゝ様請願書を提出すること。(實行方法は大會の名に於て學會が同協會を訪問請願すること。)

提案者 原田三馬

**第二提案** 大會の名に於て明年度東京で開催の第7回世界教育會議日本事務局に對し同會議出席者招待の際エス文の招待狀を出し又出席者に配布する文書等もエス文でなす様陳情すること。

提案者 矢島英男、原田三馬

二案を一括して上程、提案者原田氏登壇理由をのべる。岡本氏より賛成演説あり。満場一致可決した。磯崎氏よりラヂオ放送についてのいろんな意見を進藤氏にきけとのべる。進藤氏よりラヂオ放送に當つては我々エスペランティストは大いに聴取者數をふやしてテキストの賣行をよくせぬことにはだめだとのべる。

猶豫定の時刻が來たので大會協議會は第二日大會大學の後にゆづりーまづ協議會をとちた。

### 懇親晚餐會

19時半から懇親晚餐會にうつる。

高瀬會頭の挨拶があつて志文の岡本義雄氏司會の下に挨拶。

眞崎博士がオリンピックの獨逸語放送をきいて40年の東京でのオリンピックの際の用語にときおよびエス語にしたいとむすばる。進藤靜太郎氏がビール味の味について説明。野原休一氏がエス運動の發展ぶりを祝福し萬澤嬢は公務のため大會不參の小坂氏の *saluto* を代讀。岡崎英肇氏の法話。帶廣の佐藤松男氏の歌。蔡氏の中國の歌磯崎氏の *カレス、キ* (エス譯) その他道内道外の猛者連のいづれおとらぬ隠し藝續出。21時半門限のためおひらきになる。

合宿は30名以上の宿泊者でごつたがへす。

### 8月9日(第二日)

今日は會場が午前豊平館、午後は今井紀念館である。

豊平館へゆく。今日初めて出席される人も可成ある。旭川から木澤會長初め武田當摩氏等も來られた。

9時から九州エス聯盟の總會がある。苫小牧の岡垣氏を議長に推選さる。

第一提案。明年第六回全道大會を旭川へ招待の件。(旭川エス會提案)

當摩氏説明、福田氏賛成、木澤會長が感謝の辭をのべる。

第二提案。全道中等學校へエス語を隨意科として採用の件(札幌エス會提案)。

相澤氏説明。陳情と請願とについて二三押問答あり。起草委員として相澤、岡本、細井、福田、佐藤の5氏えらばる。ついで聯盟の會計報告が相澤氏よりあり。

幹事改選問題にうつり聯盟事務所移轉問題が之に關係ありとして福田氏の發言あり。この問題は意外の紛糾をきたし *varma diskuto* があつて一寸シユーシユーできぬ程の混亂になつたが岡垣議長は至極あざやかな手さばきで之については後日文書によつて總會をひらいて決定すべしとのべて二三出席者の發言を封じ閉會を宣し一段と男ぶりをあげた。

### 分科會

10時半から佛教徒、キリスト教徒、文藝鐵道、醫學の分科會あり。どの分科會にも屬さない人々があつまつて *babelada kunsido* をもつ。これはよもやまのエス語漫談に打興じ



たらしい。これで晝食をすませ皆今井記念館へゆく。

### 分科會報告

13時半から午前の分科會の報告がある。

佛教分科會	藤川哲藏氏
基督教分科會	渡部隆志氏
文藝分科會	磯崎巖氏
鐵道分科會	後藤喜六氏
醫學分科會	高部益男氏

### 大會大學

ついで大會大學にうつり

エスペラント語彙の一考案

	岡本好次氏
エスペラント文學概論	三宅史平氏
エス運動について	進藤静太郎氏

聴衆に多大の感銘を與へた。

### 大會協議會

(第二日)

16時20分第一日の續きとして協議會がもたれた。昨日に比べて今日は出席者が少い。市内見物でもしてをるものであらう。福田議長司會の下に再開。

### 案三提案

La tutjapana esperantistaro

eldonu sian plenan adresaron

京都エス聯盟 近藤國臣提案

**第四提案** La tutjapana esperantistaro invitu en la nomo de la kongreso la Universalan Esperanto-Kongreson por 1940, okaze de la venontaj Olimpiaj Ludoj en Tokio.

同上

以上二提案は提案者自身出席せず且提案を委任された代辯者がをらぬため最後へまはす。

**第五提案** 1940年の東京オリンピック大會の際オリンピック委員會に働きかけエス語を採用せしめる様運動すること(實行方法は學會内エス運動後援會が中心となつてやること)。

東京エス俱樂部提案

寺喜久治氏提案理由説明す。竹中治助氏賛成をのべ且實行にあたり名古屋より出た青木

博士等の意見も参考にされよとのべる。高橋菊藏氏提案に對する賛成演説。磯崎氏より衆智をあつめ實行方法を考へよと konsilo を提出。

**第六提案** La propono pri gramofondisko kun Esp-a kanto, kiu tenoro Uĉimoto de Columbia Kompanio bonvolis kanti Largo de Händel.

進藤静太郎提案

進藤氏より内本實氏がコロムビアでふきこんだエスペラントの歌 (Internacia Kantaro の終の方にある。Opera Xerxes) をうたつたもの。

これは日本のエスペランチストが 500 枚 (代價700 圓位) 引受ければコロムビアで發賣してくれるといふ種類のもの。このレコード發賣については京阪神のエス會では合計 100

枚以上も引受けるといふ豫約があるのだとのべられ他の全国各地同志諸君の意向を伺ひたい。

磯崎氏——これはレコードの事で商賣上の事である。商賣上の事を大會で話し合ふのはよくないと反對。

竹中氏——

絶対に商賣の事ではない。エス運動上のことだとのべる。

磯崎氏——商賣上はいひすぎたと失言取消す。

出席者の多くがレコードは結構だが 500 枚といふ様な大量引受のことはどうだらうといった風なことをささやく。

議長よりどうするかと進藤氏にはかる。進藤氏は皆様に考へてもらへばよいといふ。

議長よりでは各地方會でどの位買へるか意向をまとめてみようとのべる。

**第七提案** Alvoko al la tutmondo por la alta taksado de Zamenhofa motivo.

磯崎巖提案

ザメンホフを高く評價せよといふのである。歐洲の同志にも檄せよといふのである。



佛教分科會



ザメンホフの著作なども完成してをらぬのであり研究も不十分だといふのである。可決。

**第八提案** Eldonu la libron pri Japan Kulturo por la memoro de la jubilea kongreso. 同上

實行は來年の大準備會委員會にやつてもらひたいといふ提案者の意向をのべる。可決。

**第九提案** Realigo de unuigita movado inter diversaj lingvoraciigaj movadoj. 同上

ローマ字會カナモジ會等と提携し運動すべきことをとく。

高橋菊藏氏はローマ字はローマ字カナはカナ、エス語はエス語だ。そんななまぬるい妥協はエス語一本槍でゆくものにとつて無用だ。反對だとのべる。

趣旨が結構だからお互にその方面に働こうといふ意味で可決。

**十提案** Alvoko al la publiko. 同上

大會の名で neesperantista publiko へよびかけること。實行は本大會準備委員會にまかせること。

異義なく可決。

つづいで議長より第三第四提案は提案者缺席につきもつとも重大な實行方法等につき具體的説明をうる事困難はる故審議不可能であると宣した。提案者缺席するもその趣旨をとり議すべしとのべるものがあつたが竹中氏が長崎大會の先例をのべ大會で審議せず來年度大會にあらためて提出してもらへとのべる。

以上で大會協議會を終了。

19時半より同所で普及講演會をもつ。次の顔觸順序ではなす。聯衆 200 名位。

開會の辭 浪越春夫氏  
我國へエス語が入つてきた経路

岡本好次氏

ザメンホフ 高瀬正榮氏

日本古典とエスペラント 野原休一氏

中華民國における言語運動

蔡利斯氏

(通譯) 浪越春夫氏

世界のエス運動 進藤静太郎氏

閉會の辭

22時半終了。散會。聴衆は甚だ熱心であつた。15日からの講習にはきつと多數參加のことと思ふ。

**8月10日(第三日)**

第3日は支笏湖への Ekskuro である。

午前7時合宿前集合 autobus 二臺に分乗。四十餘名參加。支笏湖へ向ふ。札幌は晴天といつてよい。この分では今年も晴天つづきの大會かもしれぬ。去年は三日間雨ふりばかりの大會だつたがと考へてゐる。さるほどにゆ

くほどに天氣模様があやしく細い雨が autobus にあたつてくる。

大會はやはり三日つづいて晴天が無理らしい。

大正十年から一度もかかさず 24 回の日本大會中 17 回連續皆出席のレコードをもつてゐる記者の記憶にも三日つづいて上天氣だつた記憶は殆んどない。三日の中一日位は少しでも雨がふるのが通例の様である。三日とも雨のふつたのは昨年だけの様だが。

バスのすすむにしたがひ雨ははげしくなる。8時半頃千歳へつくここで孵化場を雨の中で見學する。

再びバスにのつて湖畔へつく。バスをおりて湖畔へ山道を下る。相當ひどい道だ舟にのつて對岸へわたり中村屋休憩所へゆく。雨が相當ひどいので支笏湖のながめもまるでおじやんである。

併し札幌からここまでのバスでゆられる三時間程の間は皆で打興じつつ實に愉快であつた。

大會のたのしみはここらにある様だ。景色などは二の次だ。

つづいで休憩所へ到着。

休憩の後着席。晝の御馳走が出る。鱒のやいたものとライスカレー山盛。

食事の後雜談。その中に協議會に出てゐた 1940 年に萬國大會を日本へ招くことについて非公式の意見交換。結局學會等でどの位費用があるか UEA へどれだけ licencpago を出すか等について問合せ且萬國博等もどの位補助金をくれるものか瀬ぶみをしてみることにしてはといふ希望意見等であつた。學會事務所でそれらの調査を引受けることにした。

午後2時よりもときた道を引かへす。autobus の中は來る時よりも賑やかに笑ひさざめきながら歸る。4時歸着。合宿に一休み。

午後4時過の汽車で上るもの下るものを先頭としてだんだんちつてゆく。

道内から來たものは大體歸つてゆく。道外から來たものは大會後北海道各地の名所見物に思ひ思ひに單獨行動をとつて阿寒へ。マジュ湖へ。登別へ。カリカチ峠へ。層雲峽へ。根室へ。落石へ。

記者は大會後再び特使として東北の7都市訪問の大役があるので10日午後9時過の汽車で同志數名と青森へ直行した。

おことわり：大會の公式の詳細の議事録は後日發表される。この參加記はホンの記憶によつて書いたもの。しかも大會後東北を旅行し引つづいて夏季大學等の多忙のため原稿をまとめる機會がなく。記憶のうすれた今日大急ぎでまとめたもの故不備の點はあらかじめ御了承をお願いしたい。(岡本)



# 北海道及東北の同志を訪ねて

岡 本 好 次

**學**會特使として札幌の大會前に北海道を大會後に東北地方を巡遊すべき重任をおびて

7月24日 午前9時40分雨のふる上野驛に立つ。小雨がふつてゐる。幸ひ岩手縣の郷里へ歸られる塚田正勤氏と同車することになつたので一の關までは同伴者をえたわけだ。原田、酒井兩君が態々驛まで見送つて下さつた。午前10時汽車は北に向つて動き始めた。

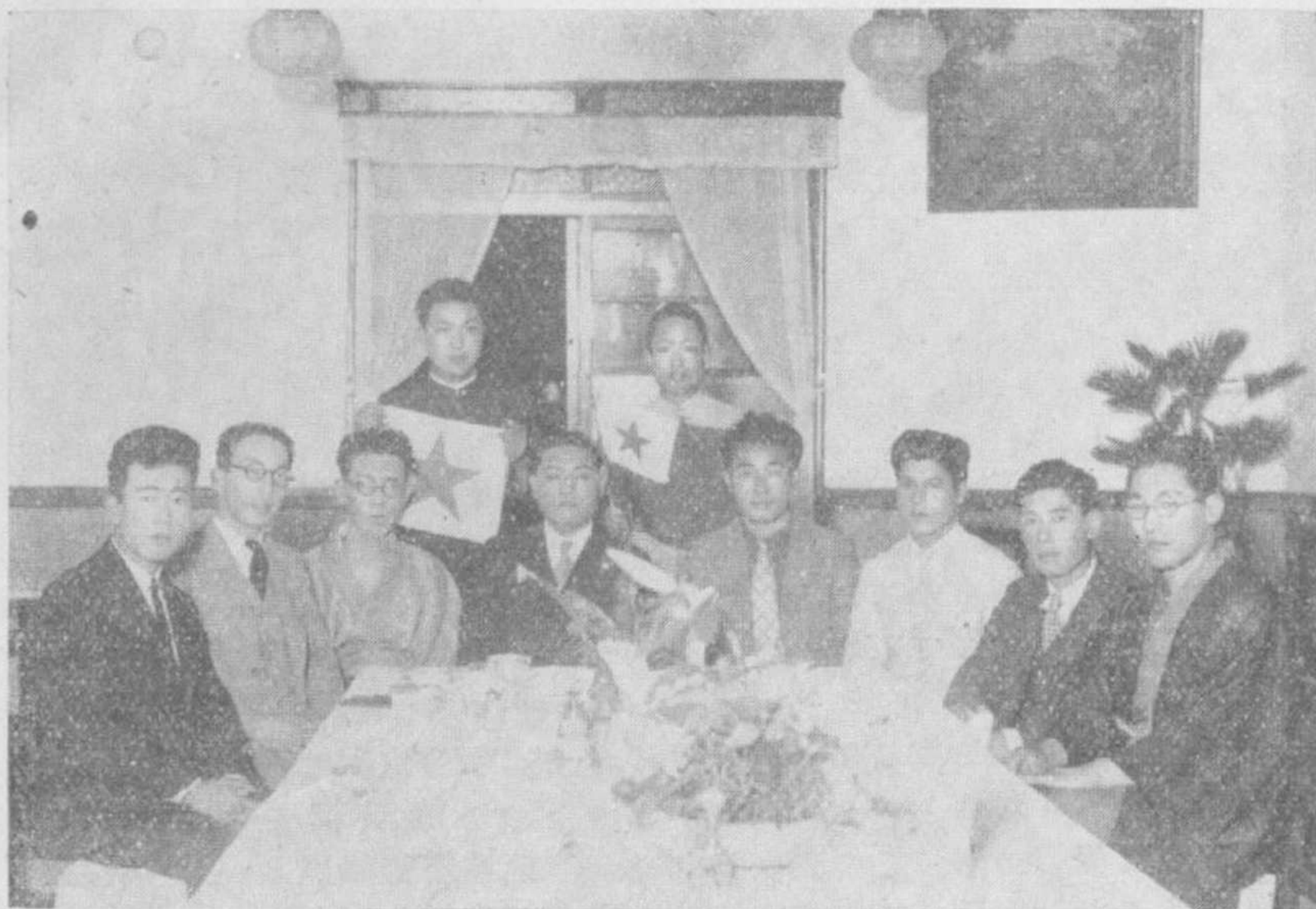
午後6時24分一の關で塚田君に別れて獨りになる。午後11時30分汽車は青森についた。こゝでは青森の同志葛西氏が出迎へられるといふお便りがあつたので綠星旗を手にして下りる。お一人かと思つてゐたら6名程の多勢にまづ驚かされた。早速連絡船松前丸へ乗り移る。同志が船まで一緒に來られ、そこで初對面の挨拶やら同志の方々の御紹介があつた。廿分程しやべつてゐる中に發船の時刻(午前0時半)が來た。葛西氏は函館まで同伴してくれるとのこと。葛西氏を除く他の同志は下船し埠頭に立つ。葛西氏と自分は上甲板へ出て bonvojaĝon と adiaŭ ĝis revido の交換をする。水陸呼應して Tagiĝo を合唱する中に船は出帆する。その時連絡船の事務長らしい人がツカツカと我々の所へやつてきてエス語で「それはエスペラントの旗か」「貴下はエスペランチストか」といつた風なことを話しかけてきた。不意の同志の出現に夢かとはばかり驚いてゐる中に「後で船室へゆくから」と會釋をして消えてしまつた。我々は埠頭の人影が見えなくなるまで旗をふつてから船室へ入つた。船室で身支度をしてゐる中に先刻の事務長らしい人が我々を船室へ探しにこられた。こゝだと合圖をしたら自分の室へ來たまへと我々を導いてくれる。部屋へ入つてから初對面の挨拶をする。三人で一時間半以上もエス語の話ばかりする。この人は十數年前函館で高桑氏にエス語を學び數年前再び函館で講習をうけたことのある人で「エス誌」をよんでゐるので自分の北上を知つたといふ。どのエス會にも入つてゐない。お名前は山内廣氏。今後は積極的に各種のエス會に加入されることを約束された。自分は思ひも受けぬ同志との邂逅に綠星の旅の幸先を心の中で祝福した。

大分夜もふけたので辭去して船室へゆきグツスリと寝こむ。だが一時間程で眼がさめてしまつた。旅の第一夜はかくしてあつてなくあけてしまつた。

7月25日函館 午前5時我等の松前丸は北海道の玄關函館の棧橋に横付けになつた。下船して綠星旗と荷物を手にして改札口へ出る。旗を見つけて同志が三四人集つて來られた。十二年前に仙臺の大會でおあひした吉田榮氏の顔がおぼろげながら記憶からよみがへる。吉田氏の外に當地エス會の事務所のあるエビス藥局主小田島榮氏、拓銀の井上久氏、水野宏氏、函館毎日の松樹明氏がむかへてくれた。驛で朝食の後同志と共に旅館へゆく。宿へは函館中學の福田英男氏も來られ一昨年迄東京におられた井上一氏(二葉亭とエス語の研究家で先般特輯號に執筆された方)も來られた。同氏は今市役所で働いてをられる。井上久氏は當日朝の船で東京の方へ公務出張のため辭去された。

午前10時頃から水野松樹兩氏と同道まづ驛前に函館運輸事務所長牧野弘氏を訪問鐵道界のエス運動に對し理解ある支援をお願いした。ついで商工會議所を訪問鶴本氏にあひ商工會議所にてエスの活用をお願いする。同會議所ではもとエス講習のため好意ある支持をされたことがあつたとの事。次に函館日々新聞(岡田整理部長)、函館新聞(西整理部長)、函館毎日新聞(細川編輯長)を訪問した。函館日々の岡田氏はエス語を高等學校時代に學ばれた事もあつて目下熊本にゐる電通の河邑光城(學會々員)氏と當地でエス語のため力添されたといふ話をされ今後エス語の講習會場として社内の一室を提供してもよいとの好意ある申出をされた。函館毎日新聞はもと副編輯長として我等の古い同志高桑正吾氏が敏腕をふるわれた新聞であり今は新進の同志松樹君のつとめてをられる社である。細川編輯長は亦東京朝日の土岐氏の知人でありエス語に深い理解を示された。





函館での懇談會  
左より水野、井上  
(一)、大和、松樹、  
岡本、田中、葛西、  
福田、吉田、廣部  
の諸氏。



→ 帶廣エス會の特使歡迎遠足會



苫小牧での懇談會  
右より〔前列〕川  
原田、三原、岡本、  
渡部、岡垣夫人、  
渡部夫人。〔後列〕  
新田、大澤、中野、  
門脇、鈴木、爲家、  
岡垣、木村の諸氏。



次に井上一氏の居られる市役所を訪問市長に面會したいと思つたが生憎不在でだめ。

ついでデパートで晝食後小田島氏宅を訪問井上一氏も加り四名で山の手にある函館圖書館を訪問、館長岡田健藏氏は井上氏と親しくエス語にも非常に理解をもたれ同館所蔵エス書二十數冊をとりだして見せて下さつた。吉田氏もこゝへこられた。

こゝで小憩の後晩の懇談會の爲街の中央部へ引きかへした。吉田氏と共に古い同志である廣部繁氏のお宅へ一寸敬意を表し宿へ歸る。

懇談會は午後7時頃から鶴岡町の五島軒の階上でもたれた。食事後學會の現状資産狀態を説明し出席者各位の意見をきかせていたゞく。

〔出席者〕 田中榮藏、吉田榮、大和庄祐、井上一、水野宏、廣部繁、松樹明、福田英男。以上8氏。(小田島氏はお子様急病のため缺席された)。

〔注意〕 以下出席者芳名はノートへ御記入下さつた順です。又懇談會で話し合つた事柄の中出席各位の申出等については各地全部をまとめたものを別に後日發表しますからこの旅行記には記入致しません。

函館のエス運動は數年前迄は非常に盛んであつた。大正12年學會宣傳旅行隊の一員として參加した自分が同地を訪れた時はエス運動が將に勃發せんとする時で大變活氣があり高桑氏が函館毎日の副編輯長として言論の力によつてエス語宣傳につとめられ虎渡(とら)氏、齋藤氏、橋本氏等當地の名士が我が陣營に加つてをられた。大正13年とかにエス會が誕生してこゝに活氣ある運動が始められ吉田廣部氏等が新進として登場された。その後數年間のエス運動は北海道では札幌と第一位を爭ふほどの發展ぶりだつたそうであるがプロ運動の人々の活躍と共に彈壓が強くなつて手も足も出なくなり一昨年の大火の影響もあつてエス運動は外面的に全く逼塞してしまつた。しかし聖火は熱心な同志によつてもちつゞけられた。今秋を期しての復活が約束されてゐるようだ。自分の訪問が何等かの意味でその刺戟になつたことをよろこびたい。猶大會後道外の同志が多數同地を訪れたことが第二第三の拍車となつたことをよろこびたい。

所用のため高桑氏とかけちがつておあひ出來なかつたのは残念だつた。講習場を提供されてゐた虎渡氏(眼科醫)のなくなられたのも同地の同志にとつて大きな傷手だつたのだ。今は懇談會に出席された若い人々が主として働いてをられる。昔日の活躍を取戻してほしい。

#### 7月26日 小樽(第1日)

午前6時水野君松樹君等の同志に見送られて函館驛を出發。午前11時39分南小樽驛着。驛前には小樽エス協會の坂下、藤川、高橋、山本、江口、本間、福田の諸君が出迎へてくれる。先年東京に居られ昨年の名古屋大會の後東京に數日間滞在してをられた福田仁一君の宅に御厄介になるのだがその宅が驛のすぐ後なのでまづ荷物をとどけてもらつて一同連立つて北海タイムスの支局を訪問。長谷川支局長にあつて日頃の好意を謝した。その節札幌大會のプログラモを示した所之を本社へ電話してのせさせようと約束された。次に小樽新聞を訪問嘉納編輯長に面會同じく好意を謝した。

ついで港の岸壁へ行つて港の模様を見物し小樽エス協會の會話會場たる喫茶店オリンピックで少憩それから同志と別れ福田氏と二人で公園へ行つた。午後7時半から公園内の圖書館で普及講演會があることになつてゐた。之は小樽エス協會と圖書館の共同主催であつた。大きな立看板が同館前に立ててあつた。館長今井福次郎氏はやはりエス語に好意をもつてをられる。併し、何分にも土地の人が文化運動に無理解なので新聞の催欄にも記事が出たにも拘らず聴衆が約20名といふことは遺憾であつた。今井館長の話では同館主催で何とかいふ天下の名士が精神作興か何かの話にきた時も一人の聴手もなく大急ぎで青年學校の夜學生の授業をやめて俄仕立の聴衆にしてお茶をにごしたといふ話をきいた。地方での文化運動のくるしさを考へる。今井館長の開會の辭あり「小樽エス界の紹介」を福田仁一氏がやりついで自分が「國際語の變遷とエス語の現状」といふ始めから指定された演題でしやべつた。

#### 7月27日 小樽(第2日)

福田氏宅でゆつくり朝寢坊をする。晝間は暇である。丁度同志石栗氏の好意によつて近海郵船會社支店の樓上に樺太國境劃定會議をひらいた紀念の室が當時のまゝ保存されてゐるのを見せてもらふことになつた。これは土地の人でも何かの機會がないと見られないとの事であつた。オリンピックで福田氏と二人でまちあはせてゐる中に石栗、山本兩氏が來られ高橋、坂下氏等も合流同會議室を見せてもらつた。サイン帖へエス語で文句をかいて署名してくる。



午後7時から坂下會長宅で懇談會をもつ。學會に對するいろいろな注文も出る。午後11時半頃散會。小雨がふつてきた。福田氏宅へついたのが12時頃。

〔出席者〕 坂下清一、石栗運藏、高橋要一、藤川哲藏、江口晋吉、山本茂、福田仁一、本間源吾。以上の8氏。

大正12年自分等が當地を訪問した時は高商の岩垂裕氏が専ら御世話下さつたことを記憶してゐる。當時市民の會がなかつた様だ。大正14年に秋田から近藤養造氏が當地へうつられてエス運動の種をまかれエス會をつくられたとの事である。坂下氏は中學時代高商の外國語劇でエス語の劇を見たといふ話である。石栗氏も高商在學時代に學習を始められたものである。近藤氏等によつて講習がつゞけられ活潑な活動をつゞけてゐたが昭和8年福田仁一氏が同地へ歸つてからは一層各會を刺戟することにより一段の活氣を呈し昭和9年の全道大會をひかへては足並をそろへて各會の結束が出来た。

今日の小樽エス界は全く一騎當千の人々が多く實に多士濟々全道中異色のある活況を呈してゐる。ぜひこれらの人々が結束して同地のエス運動に活躍していただきたいと思ふ。講演會の時佛教エス會長岡崎英肇氏にお目にかゝる。同氏は大谷大學在學中エス語を學ばれた方で京都の佛エス聯盟を除けば全國では佛教エス會として最も活氣ある活動をつゞけてゐる唯一の會であるといつても過言でないと思ふ。藤川氏邊見氏本間氏等が岡崎氏を補佐して活躍されてゐる人々である。大會の佛教分科會は殆んどこれら小樽の人々によつてしめられたほどである。高橋氏は會話會を主宰し毎朝一時間散歩しながら福田氏とエス會話の練習をされるといふ猛烈さには頭がさがる。江口氏は少し以前身體をこはされたとのことであつたが同氏も亦が同地エス界の錚々たる闘士である。

これらの人々が皆一丸になつて小樽エス協會をもちたてゝをられるわけである。

#### 7月28日 札幌(第1日)

朝から雨がふつてゐる午前11時47分福田氏と同伴南小樽驛發同志數名に見送られて札幌へ向ふ。午後0時47分札幌着。

流石は大會を目前にひかへて緑星の都と化した札幌だけあつて出迎へてくれる同志の數も多く(特に鐵道關係の方々が多いせいもあるが)十數名ズラリと並んで迎へていたゞいたにはいさゝか度膽をぬかれた。同地鐵道エス界の重鎮坂本楯旗氏初め小笠原氏、後藤氏等の衛生試験所關係の人々や小森、仁岸等の鐵道人有名な阿部、太丸、村山の三嬢札幌エス會の方からは浪越氏等が來られた。自分の宿をひきうけてくれた高校及大學時代からの親友で同志である山下逸二郎君がかけつけて來られた。雨がふつてゐるのでどうにもならない。晩の懇談會までを山下氏宅ですぐすべく福田氏と共に山下氏につれられ自動車で山下氏宅へゆく。午後6時頃相澤氏が來られる。

午後6時半明治製菓での懇談會へ出席。

懇談會は最も盛會であつた。こゝで元新潟醫大に居られた我等の同志北大數授眞崎健夫博士にお目にかゝる。相澤氏が眞崎博士にお願いした結果同博士の好意により明日の同地ロータリークラブの例會でエス語紹介講演(15分間)が出来る様御配慮下さることになつた。又夏休を利用して旭川でエス講習をやられる元苫小牧工業(現富山工業)の渡部隆志氏にもこの懇談會でお目にかゝれた。札幌師範の五十年紀念とかで出張された志文の岡本義雄氏三笠山村の細井末夫氏のお二人にお會ひできたのも何よりのよるこびであつた。懇談會は10時頃閉會。

〔出席者〕 福原久泰、小森政雄、仁岸陸夫、木村喜壬治、佐藤徳治、阿部壽満子、村山静子、太丸マツ子、北村宏、山賀勇、脇坂圭治、細井末夫、岡本義雄、相澤治雄、眞崎健夫、前田徳泰、浪越春夫、山下逸二郎、後藤喜六、渡部隆志、福田仁一、以上21名。

當地のエス界は大正8年頃三田智大氏によつて始められ大正9年小坂氏の來札によつて刺戟され大正12年頃自分等の宣傳旅行の時は高瀬、田上等の人々が熱心に活動されてゐた。その後北大を中心に相當盛大にエス運動が發展した。しかし昭和8年4月の北大赤化事件が突發したため北大の學生はすべてエス運動に参加を禁止されたかたちであり同大の數授連もエス運動に助力することを遠慮されたいといふ意向を傳へられそのため今日に於ても北大關係者がエス運動から手をひいてゐることが一番さびしい。エス語の如き文化運動には大學の教授や學生が第一線に立つて活躍さるべきものであるにこんな狀態では遺憾である。併し今日では大學當局



も多少理解してきたらしい。併し昔日の北大エス會の隆盛をとりもどすのは何時の事であらうか。

札幌エス會はこの大會を機に先輩高瀬正榮氏を會長に得て新陣容を立てることとなつたのは大きな收獲であつた。同會の働き手は相澤、木村、佐藤、浪越の諸氏である。

札幌エス會は元老坂本氏の下に局關係では小森、仁岸の兩氏が中心となつて阿部村山太丸の三嬢が活躍し衛生試験室の小笠原、後藤氏等が奮闘されてゐる。

今度の大會の準備は専らこれらの十名程の人々の努力によつて大成功裡に終了したのであつた。これらの人々の努力は實に涙ぐましいものであつた。

### 7月29日 札幌(第2日)

午前9時半山下氏と共に山下氏宅を出て高瀬氏訪問(不在)。10時山下氏の勤めてゐる札幌病院を訪問林院長に面會。同日ロータリークラブでエス紹介の話をする旨申上げた。同院長も *rotariano* でありしかもエス語大賛成者である。嘗てロータリークラブの會合でエス語使用をすゝめたが誰も賛成しなかつた。今日は大いに話して盲をひらいてもらひたいと。激勵された。11時北海タイムス社訪問社會部長にあひ後同社取締役山口喜一氏にお會ひした。山口氏は明治39年安孫子貞次郎氏と知り合つたのが緣故で同年5月北海旭新聞の主筆として赴任後毎日エス語會話を少しづつ同紙上に連載したといふ人。昔話をいろいろきかせてもらふ。

午前12時20分グランドホテルへ行きロータリー・クラブの會合に出席。出席者32名。眞崎博士の紹介で二三の人に紹介してもらふ。林博士もこられた。定刻になつて振鈴。一同着席。まつ先にロータリーの歌を歌ふ。エス語の *himno* と似たような歌詞である。晝食後 *gastoj* の15分間演説がある。3 *gastoj* の一人として自分はエス語紹介の話をする。15分では仲々まとまつた話はできなかつた。併し眞崎博士の御好意で幹事にうまく耳打してくれたので散會前エス語についてもつと知りたい人は別室できいてくれと話してくれた。散會後別室で眞崎博士も加はり數氏があとにのこりいろいろエス語について質問がある。二時間程も話しこんでゐる。

豫定よりおくれて明治製菓へゆく。同所では札幌の藥學關係の同志の會合がもたれた。午後3時半から會合。8名出席。北大藥局長藥學博士杉井善雄氏も出席された。藥學關係のエス問題についていろいろ懇談。今後札幌病院の山下氏が中心になつて活躍鐵道の後藤氏幹事役をひきうけられる筈。今後は同地にも藥學エス會が發展することと思ふ。

午後6時より山下氏宅で第二回懇話會。但し主として大會の件につき打合せが行はれた。出席者は前夜の顔觸から數名少くなつただけ。大會々頭たる高瀬氏も出席された。自分とは十年振の再會であつた。

### 7月30日 旭川(第1日)

旭川行の汽車の時刻がまちがつてゐたので午前6時に起きてとにかく山下氏と札幌驛まで行く。相澤、木村、後藤氏等が見送りに来てくれる。旭川行の渡部隆志氏と同道の手筈であつたが汽車の時間がまちがつてゐたので渡部氏が先へゆかれ自分は結局8時42分發の列車で旭川へ行くことになつた。時間が少しあつたので札幌鐵道局へ行き坂本氏に敬意を表しに行く。局の三嬢小森氏等も出て來られた。8時42分主として鐵道の人々に見送られて發車。午後0時35分旭川着。驛頭に綠星旗を續がえして木津會長以下數名の同志及び先行の渡部氏のお出迎へをうける。

それより木津氏宅へ行く旭川エスペラント會といふ看板が目につく。少憩の後笹岡旅館へ行く。川名、竹吉、遠藤、高宮氏等も同行さる。渡部氏と一緒に宿にくつろぎ同志と歡談數時。その後測候所の工藤氏がこられた同氏は高層氣象臺のエス文報告に刺戟をうけて學習を始められたとの事。しかも同僚の池田氏と期せずして同時に學習を始めたとの事。兩氏の熱心さには木津會長も驚嘆してゐる。

午後7時から中屋で懇談會を開く。

〔出席者〕 木津義雄、吉岡重人、片岸喜幸、今井弘、川名正二郎、竹吉正廣、松原喜代治、藤田信輝、橋本貞三、遠藤正臣、高宮アイ、武田威勢、當摩憲三、渡部隆志、工藤朝次郎、池田護。以上17名。

旭川では山口喜一氏が明治39年頃エス語を新聞紙上で紹介した時分軍人でエス語をやつてゐる人がゐた。大正12年に自分等が當地訪問の節は星憲道氏涼木優輝氏等が居られたが十分



會として發展してをらなかつた。その後の當地のエス運動については十分判つてゐない。當地に新しくエス會が出来たのが昭和7年であつた。その後幾多の迂餘曲折をへて今日の旭川エス會の基礎は昭和9年に出来上つたのである。現會長木津氏の熱心ぶりは實に驚くばかりで身を以て第一線に活躍してをるのは涙ぐましいばかりである。武田、當摩氏がやゝ古參格であるが之迄公務出張が多いので十二分に活躍できぬとのこと。川名、竹吉、遠藤の諸氏が中堅といつたところ、高宮嬢は全道内でも最も光つてゐる婦人エスペランティストで特異の存在である。

まだ若い *frêsa* な當會は必ずやこゝ一兩年中に大飛躍をなすことと思ふ。來年の全道大會は當地で開かれるとのこと。各位の御活躍をのぞむ。

### 7月31日 旭川(第2日)

この日は朝から雨がふつてゐた。午前中は昨夜同宿した渡部氏とよもやまの話に時をすごした。

午後2時より木澤氏遠藤氏と同道まづ旭川タイムス社を訪問日頃の好意を謝し次に旭川警察署を訪問特高係と談合、ついで旭川新聞社を訪問しやはり日頃の好意を謝した。それから同市唯一の圖書館下村文庫を訪問。古い北海旭新聞を見せてもらひにいつたが無駄であつた。

午後7時より木津氏宅で第2回懇談會。木津會長その他より學會に對するいろいろの注文があつた。出席者は前日出た人々の中木津、遠藤、川名、工藤、武田、當摩、竹吉、高宮、渡部の諸氏であつたと記憶する。新しくこの晩出席された人に測候所の池田湧氏がある。あとでエス語演説の見本として自分が旅行の話をする高宮嬢が手際よく通譯して下さつた。午後10時半散會。雨がさかんに降つてゐた。

### 8月1日 釧路

雨があがつてスガスガしい朝である。午前5時50分木津會長始め數名の同志に送られて出發釧路にむかふ。旭川にのこつて講習をやられる渡部氏とも苦小牧での再會を約してお別れした。車中の気温は攝氏 22.5 度といふすゞしさ。正午過帶廣驛へついた。或はと思つてプラットを見てみるとブリツヂから緑星旗をもつた同志がかけて來られた沼田氏だ。次に長谷川氏と紺野、黒澤の兩嬢が來られた。プラットへ出て立話をする。明日の再會を約して釧路へ。午後4時過になつて大樂毛驛まで來た時大緑星旗をかついだ丹氏と鐵道の制服をつけた佐々木、穴戸の兩氏が車内へさがしにきてくれる。約十時間の無聊をへて無暗にうれしさがこみあげてくる。釧路驛へつく。早速丹氏の齋藤病院へつく。落石から態々 116 軒も離れた釧路へ無電局にゐる山下文雄氏が來て下さつたことは何よりも感激にたえなかつた同氏は苦工における渡部氏の弟子である。北海道のどこへいつても渡部氏の蒔かれたエスペラントの種がうえつけられてゐるのに驚く。

午後7時から同病院内の一室で共に晚餐をとつてから懇談にうつつた。いろいろの話も出た。午後12時過まで懇談がつゞけられた。

〔出席者〕 穴戸武志、三浦順一、丹貞一、桑原一、佐々木喬樹、山下文雄。以上6氏。

當地のエス會は富山藥專在學以來の熱心な同志丹氏が幹事として永く活動をつゞけてゐる。それをたすけて古い同志である佐々木、穴戸氏ややゝ新しい三浦氏等が之を補佐し支持してゐる。小學校長で名望家の藤野謙助氏が會長となつてをられるため外部に對して都合がよいとの事。

當地の活動は最近活潑をかいてゐる様につたへられてゐたがしかし絶えず多少の活動はつづけられてゐたようである。唯他の土地できいた噂によれば當地には外國語の智識をむやみにふりまはして講習指導者をこまらせてよるこんである人や會長にするなら會に入つてやるといふ心臓の強い人やがゐるのでやりにくいといふことである。果して眞實かどうかしらぬがどこの土地にも多少こういつた種類の人が存在しないわけではない。エス會は人間の頭數をそろへるよりも少數の人でも緊密な提携をして力づよく外部に働くべきだからこういつた人々とは袂を別つてもやむをえまい。

自分の訪問が何等かのきつかけになつて當地に再び力強い運動が起ることをのぞんでやまない。

藤野氏が御多忙でお目にかゝれなかつたのは遺憾であつた。

夜は山下氏と同室で丹氏の御厄介になり同病院で眠むる。

### 8月2日 帶廣(第1日)

午前9時釧路驛發帶廣へむかふ。驛頭で古い同志藤原敬三氏(大正12年には札幌におられ



た方)にお目にかゝつた。矢戸、丹兩氏は大樂毛まで佐々木氏は白糠まで見送つて下さつた。

午後 0 時 33 分帯廣驛着。菅沼副會長初め昨日驛頭でおあひした人々其他十名程の同地エス會の人々が出迎へて下さつた。自分ののつて來た汽車で同志佐藤松男氏が小樽へむかはれるので之の見送もかねて。自分と佐藤氏とはそのためお話も出来なかつたが大會の時お會ひすることが出来た。

まづ會長塚田氏の宅へむかふ。途中塚田會長が態々自轉車で出迎へてくれた。

塚田會長宅で同志諸君の御名前を承る。少時雑談の後今日は日曜日なので豫定の通り水光園へ遠足にゆくことにきまつた。少し暑いので和服にかへてゆく。菅沼副會長以下同勢十數名。エス語で *babili* ながら帯廣の街を通つて田圃脇の道をへて水光園へつく。塚田會長は嬢ちやん坊ちやんを同伴既に先着されてゐる。一個人が所有してゐる庭園で一般に開放してゐるとの事。當日はカメラデーとかで少し賑かだつたらしいが我々のいつた頃はおそかつたので少なかつた。芝生に腰を下ろす。frukutoj や kukoj がくばれる。園中を流れる川にボート三艘を浮べて遊ぶ。

午後 4 時過一同歸路につく途中十勝川にそつて歩み帯廣神社に參拜の上歸る。

午後 7 時より千秋庵で座談會を催す。これは新聞記者 3 名。特高係一名をふくむもので懇談といふよりも啓蒙的の催であつたので自分はエス運動の現状について話す。後自己紹介その他あつて 10 時過散會。

〔出席者〕 塚田勝、菅沼寛、長谷川守、沼田芳藏、井上明、井關貞雄、渡邊武功、池田峯秋、野田敏、古井政光、黒澤正子、紺野ケイ子、永峯春恵、枝廣岩男、森本三郎、長田光男、以上 16 氏。外に 4 名。

同志尾澤清氏は所用のため *ekskurso* にのみ參加。

### 8 月 3 日 帯廣 (第 2 日)

昨日は日曜だつたが今日は晝間の勤務のある人ばかりで *fraŭlinoj* がお暇なので宿舎たる塚田會長宅へ遊びに來られるとの事であつたが 10 時半を過ぎて來られないので近所の郵便局へハガキを買ひに行つた。その間に 3 *fraŭlinoj* が來られたがすぐ歸つてしまはれたとの事で残念であつた。

札幌には鐵道の三嬢がゐて何時も一緒に同一行動をとつてゐるがこゝにも黒澤、紺野、永峯の三嬢がゐてやはり何時も連立つてをられる。地方ではお嬢さんのエス語學習特にエス會合への出席については父兄の方の御注文が多くてむづかしいらしい。一例をあげればあまり毎晩外出してはいかぬとか。いつた風なこと。これは父兄の無理解ではなく世間がうるさいからなので、實際少しかはつたことをやるものに世間のうはさはどうるさいものはない。

同日午後 2 時より沼田芳藏氏が特に勤務時間中をさいて新聞社その他の訪問に同伴された。

北海タイムス支局。市役所(こゝでは池田峯秋氏の御口添もあつて産業課長に會つた。——猶池田氏の御努力で札幌大會には同市長の祝辭やその他いろいろの方面の祝辭等がえられ且參加者へ帯廣紹介の小冊子やエハガキ等をへばる様盡力された)。帯廣商工會、警察署、十勝毎日新聞、小樽新聞支局、十勝新聞等を訪問。

夕方塚田會長御兄弟御令嬢沼田氏と同伴郊外の養鯉場を見物。

午後 7 時塚田會長宅にて懇談會を開く。

〔出席者〕長谷川守、井上明、池田峯秋、塚田勝、菅沼寛、沼田芳藏。以上 6 氏。

當地農學校には古い同志三田智大氏が大正 10 年頃から勤務されてゐたので既にその時分からエス語の宣傳がなされつゝあつた。三田氏の絶えざる種まき運動が遂に昭和 7 年原田氏等によつて芽を出し昭和 8 年三田氏が青森へ去られた後もよく之をもちこたへた。原田氏が東京へ轉任されたがその前後處置は巧みに講ぜられてゐたので帯廣エス會は微動だもしなかつた。即ち塚田氏を會長にいたゞき菅沼寛氏を副會長とするに及び會合所等も自由に手に入る様になつた。塚田會長の新築住居中の一室を *verda ĉambro* として提供されてゐるし、講習は菅沼副會長宅でやるといつた風に非常にめぐまれた状態にある。自分も會長宅に二晩御厄介になりその *verda ĉambro* を終日利用させてもらつてゐた貌である。

慶應大學醫學部エス會を牛耳られ東京學生エス聯盟の委員長をされた塚田貞雄氏は塚田會長の御令弟であることも特記すべきことである。會長は夏休中遊びにきてゐた令弟や従弟の方々にエス語學習を勧誘されてゐた。



幹事として長谷川、佐藤、沼田の三氏がガツチリと腕をくみあはせ足並そろへて活動をしてゐる。道内各地エス會訪問の節どこでも帶廣エス會をうらやましがらぬものがない位である。各地エス會を訪問した時ぜひお醫者さんの會長をえたいといつてさがしまはつてゐることをきかされた。この好調子をくずさぬ様どこまでもつゞけられたいと所幾ふものは私一人ではあるまい。

### 8月4日 志文

始めの豫定ではこの日室蘭へゆく筈であつたが出發間際に苦小牧と室蘭の都合でこの日一日が暇になつた。登別温泉へゆけといふ人もあつたが登別には同志が一人もをらぬようだ。今度の旅行はあくまで特使としての旅で名所見物ではない。一人の同志でも同志にあふといふ事が使命だと考へ地圖をひろげてみると帶廣から室蘭へゆく途中の志文(岩見澤町の一部)に熱心な同志であり自分とは同姓であり名前さへ半分發音が似てゐる岡本義雄氏が住まつてをられることは兼々本誌内地報道欄で承知してゐた。それで出發直前岡本氏の御都合をおきゝした結果小樽へ返事をいたゞき且前述の如く札幌でもおあひしたので今日は岡本氏の御好意により同氏宅へお伺ひすることにした。

午前7時34分塚田、菅沼、その他數名の同志におくられて帶廣驛發志文に向ふ。

午後3時2分岩見澤驛へ着。態々同驛まで岡本氏が出迎へて下さる。下車すると渡部隆志氏が同志であり御自分の弟子である方と立つてをられる。旭川の講習を終へて苦小牧の方へゆかれるとのこと。考へてみれば瀧川から同じ列車にのつてゐたのにをしい事をしたとお互に残念がる。同勢四人室蘭行の列車にのりうつる。志文まで話しながらくる。3時24分頃志文驛へつく。こゝで渡部氏等にわかれて岡本氏宅へゆく。岡本氏宅は驛から十數町離れた田圃にかこまれた物靜かな所にある。岡本氏は既に札幌の懇談會にも出席されたのであるから再び學會の事についてかれこれ申上げる必要もないし全くうちくつろいだ氣持で横になつたまゝお話できたので十二分に休養が出來全く有難かつた。都會ばかりまはつてゐた自分はこの田舎へ來て生れ故郷へ歸つた様ななつかしいゆつくりとした氣持に浸つた。

### 8月5日 室蘭

朝勤務の都合で岩見澤へ來られた苦小牧の岡垣氏が態々岡本氏宅まで來てくださつた。午前9時30分の汽車で室蘭へゆくために岡本岡垣兩氏に見送られて乗車する。岡本氏は同日中に札幌へゆき大會の準備の手傳をされるとの事で大會での再會を約し岡垣氏には明日の再會を約してお別れした。

汽車が東室蘭へついた時鐵道の制服をきた方が自分の綠星旗を見てよつてこられた。室蘭鐵道エス會の代表者中野五郎氏であつた。こゝまでお出迎へ下さつたのである。岡垣氏からも電話がいつてゐたのである。眞に鐵道の同志の聯絡の便利なことは驚くばかりで道内各地をまはつて鐵道の同志のおられる所はすべてこの便利が味はれるのである。午後1時30分古い同志三崎豐市氏(札幌より昨年當地へ轉勤)等始め數人の鐵道關係の同志が出迎へて下さつた。この日は志文では曇天であつたが途中から雨で當驛へ下りた時は相當烈しい雨だつた。驛前の室蘭ホテルといふのに入り二三の同志と話し合ふ。

午後4時過から木村屋喫茶部へゆき懇談會をもつ。學會の現状を話す。

〔出席者〕 東郷顯、加藤三郎、中野五郎、三木時雄、奥村豐、三崎豐市。以上6氏。

その中に三崎氏へ電話が來た。これは驛の方へフランスの同志が來たとのしらせであつた。三崎氏が迎へにゆかれた。

數日前同港へ入つたフランス軍艦ラモットピケ (Lamotte Picquet) 號乗組の Henri Berteloot 氏の來訪について横濱から通知があつたので船へ手紙を托して今晚會合があるから暇があれば來てくれといつてやつたのだそう。

7月27日に東京を訪問した Berteloot 氏である。自分は24日に出發したのであつてはゐない。

午後6時頃三崎氏に伴はれて二人のフランス人が來た。Henri Berteloot 氏と Maurice Locret 氏である。初對面の挨拶をする。Locret 氏はまだエス語を B 氏指導の下に習ひ初めたホヤホヤで殆んど話せない。B 氏は L 氏の指導をしたおかげでか相當流暢に話された。横濱ではあまり上手でないと云はれてゐたが、やはり人に教へるといふことは自分の大きな勉強になるの



だ。8月末には長崎へゆくそうだがダンダンうまくなるだろう。その後函館でも同志にあつた。青森でも同志にあつた筈。

一緒に食事をする。

後で記念寫眞をとるために寫眞館へゆく。丁度その途中なので同地の古い同志で御醫者さんである水科吉郎氏を訪問。玄關で御挨拶だけして歸つて來た。明治39年頃からの同志である。大正十二三年頃は相當熱心にやつてをられたのであつたがその後洋行されたりお忙しくなられたのでエス運動からは一時遠かつてをられたが今後何とかして御力添へ下さることを御約束下さつた。自分は大正十二年宣傳旅行の節おあひした。

寫眞をすませて7時半頃鐵道クラブへゆく。こゝでは7時から普及講演會が開かれることになつてゐたが何分準備が急だつたのと當地の人々が文化運動に無關心のため始んど聴衆が來なかつたが當地の大抵の同志が集まられた。又鐵道の人々で日頃エス語のことをきかされて今から學びたいと思つてゐる人々も來られたので急に座談會に変更した。

〔出席者〕 上記木村屋喫茶部へ出席の6氏の外に三宅はな江、重山繁、土井陸藏、折笠正、田村平次、武田洋三、上林巖、Berteloot, Locret 以上 15 氏。

Berteloot 氏のエス語の挨拶(三崎氏譯)や自分がエス語で13年前の訪問の事やいろいろ感想をのべ、やはり三崎氏が日本語に通譯し又 Berteloot 氏は Locret 氏のため佛語に譯して聞かせるといった風でなどやかな面白い風景。あとは出席者が Berteloot 氏等にフランスの事情をきいたり自分にエス運動について質問等される。

二外人の歸艦時刻が來たので午後9時半過會を閉ぢ數名で B. L. 兩氏を埠頭まで送つてゆく。Berteloot 氏は又來年日本へくるとかいつてゐた。

この土地のエス運動は上記水科吉郎氏が草わけである。明治39年頃仙臺でエス語を學ばれ明治40年代に當地へ來られたのである。

大正年代に同氏の指導でエス語を學ばれた人に目下札幌におられる小笠原氏等がある。大正12年頃は同氏の外に牧師の岡崎俊雄氏の如き熱心な人がおられさかんに普及につとめられてゐたが岡崎氏が當地を去られてからは全く malvigla になつたらしい。その後昭和8年頃普及會關係のものゝ講習會があつたりしてエス會がもたれたらしい。中學の配屬將校原昇氏や同じ中學の増田氏、女學校の市來氏、市役所の三宅嬢等が熱心に會合をもたれたとの事。増田、市來氏等は當地不在のためお會ひ出來なかつた。最近は會合が中止されてゐるとか。

一方特使訪問に主力をつくされた室蘭鐵道エスペラント會はやはり新しい會ではあるが中野氏を代表者として健實な歩みをつゞけて來てゐるが昨年古い同志三崎氏を迎へて活氣を呈して來た。今後の一大飛躍を豫想されてゐる。

## 8月6日 苫小牧

朝暇があつたので上記原昇氏をお訪ねしたが同日旭川へ赴任されるので生憎御挨拶まはりにゆかれて不在のためたゞ奥様に名刺をさしあげて引きがる。同志數名におくられて午前10時發の列車で苫小牧へ向ふ。正午過苫小牧驛着。渡邊、岡垣、鈴木、川原田數名の同志がむかへて下さる。

すぐ岡垣氏宅へ向ふ。晝食をいたゞいて話しこむ。

午後6時から驛前渡邊屋にて懇談會をもつ。

三川の方から態々新田爲男氏が來られ白老から爲家正義氏(もと横濱に居られた方)が參加されたのは何よりもうれしかつた。室蘭から中野五郎氏も參加された。

〔出席者〕 鈴木春吉、中野五郎、新田爲男、大澤誠一、岡垣千一郎、岡垣夫人、川原田彌一郎、木村秀雄、爲家正義、渡部隆志、渡部夫人、門脇松次郎、三原梅子。以上 13 氏。

この地のエス運動は古くない。昭和2年頃王子製紙の西村氏が獨り研究されてゐた。昭和3年になつて苫工に教鞭をとつてをられた渡部隆志氏がエス學習につとめ昭和4年から學校内で準正科として教へた。又學校外の希望者へも教へた。これが當地のエス運動の初めであつて渡部氏が中心となつてもつぱら發展した。昭和5年苫小牧エス會創立渡部氏義弟門脇氏が會長として努力その後渡部氏が富山へ去られ門脇氏多忙にて岡垣氏が會長の職を引受け鈴木、川原田氏等の補佐により多忙の職務に拘らず奮闘されてゐるのは涙ぐましいばかりである。

同町には苫工同窓生エス會があつて村山自助氏が専ら仕事にあたつてをられるが御多用のた



めおあひ出来なかつたのは残念であつた。苦小牧とエス語の名を思ふ時誰しも渡部氏の名を思いだす。渡部氏なき苦小牧工業の生徒の指導も岡垣氏の手によだねられた。同校卒業生は苦小牧の如き小さい町にとどまらず全国各地にちり朝鮮満洲までも發展するそうである。だから二年三年かゝつて養成しても皆各地へ行つてしまふのでさびしいといふ。まことにお氣の毒な次第である。しかしこゝで育てられた同志が全国各地へちらばることは何よりも有難いことで我國全體のエス界からみればありがたい極みである。岡垣氏の御奮闘をのぞむ。同夫人の内助の功も見逃すことができない。

同夜は岡垣會長宅に御厄介になる。夜苦工生徒菅野進君がこゝへ來られた。晝間所用のため來られなかつたのである。しばらく話す。

### 8月7日 札幌へ

午前 11 時過菅野君が來られる。一緒に札幌大會へゆくため同君と岡垣氏夫妻と同道驛へゆく。驛で先着の渡部氏同夫人その他門脇前會長初め同志数名におあひする。

午後 0 時 8 分發の汽車で同志に見送られ渡邊氏夫妻、岡垣氏、菅野氏、三川の新田氏、門脇氏夫人（お子様同伴）と大會地札幌へ向ふ。

8月8日、9日、10日 大會の模様等は別項大會參加記事につき見られたし。

8月10日午後 9 時 17 分札幌の同志数名に見送られて大會に出席された青森の葛西藤太氏弘前の谷山弘藏氏及び令嬢理阿乃さんと同車青森へ向ふ。小樽迄進藤、川崎兩君とも同車で愉快に話しながらゆく。

### 8月11日 青森

今度の旅行での初めての夜行であつた。どうにか寢られた。函館着は午前 6 時 25 分。函館の同志水野氏が獨り態々出迎へて下さつた。待合室で 7 時迄話込んでゐる。それから乗船。船迄水野氏が來られた。7 時半出帆。12 時青森港着。同志数名出迎へらる。北上の時お會ひした人々である。

同志の案内で陸奥館支店といふのに宿をとることにする。少憩の後葛西氏兄弟と同道東奥日報社、縣中央圖書館、警察署を訪問。

圖書館では事實上の館長たる吉岡龍太郎氏に面會する。同氏は冬季運動競技の權威者でオリンピックの冬季競技も公用語がノルウェー語と獨佛語の三國語だとの話からエス語に favorable な意見をのべられた。15 日からのエス講習にも會場をかせて下さることになつてゐた。後宿へ歸る。

午後 4 時過から宿の部屋で懇談會を開く。

〔出席者〕 葛西藤太、谷山弘藏、葛西藤三郎（藤太氏令弟）、神潔、小枝進、大山竹次郎。以上 6 氏。（外に谷山氏令嬢）。

午後 7 時から菊屋デパートのホールで普及講演會をもつた。北海道エス界の元老とも云ふべき現青森縣三本木農學校の三田智大氏もたまたま青森へ來てをられたので出席された。初め葛西藤三郎氏の開會の辭について三田智大氏がエス語についての感想をのべられ、葛西藤太氏が青森エス會の紹介をして自分がエスの現状を話し午後 9 時過閉會。聴衆 150 名。非常な成功であつた。

この成功の裏にはかくれた葛西氏及び同地同志の努力があるが特に葛西藤太氏のかくれた努力を注意したい。

それは葛西藤太氏は數年前からエス書の蒐集に着手され學會の型録にのつてゐるものは一つも残さず集めたしその上型録にないものも氣付いたものは蒐集されたとの事である。最近出版のエス書の藏書家としては日本一の折紙をつけてもよいのではないかと思ふ。

葛西氏のこの 500 種にあまる藏書其他ポスター類等の中 300 點をえらんで 8 月 1-2 兩日に亘り同じ菊屋デパートの同じホールでエス展覽會を開いた。これが大きな宣傳効果を奏したらしい。その際入場者へ普及講演會の事をかいたものを配つたのである。澤山のエス書をみせられてエス語の實力のスバラシさに驚嘆した人々が演說會をききにきたのだと思ふ。

講演會終了後榮作堂へゆき階上で懇談會をもつた。

出席者は葛西兄弟、神、小枝、大山の諸氏の外に三田智大、大島康治郎、西澤平治郎、其田良一。以上 9 氏。



谷山氏は午後7時過の汽車で弘前へ歸られた。

懇談會では主としてエス語に關した種々の方面の質問があり特に植物學方面の術語について意見の交換が行はれた。午後11時半頃散會。

青森市には大正12年我々の訪問した頃はエス會もなかつたようであつたがその後間もなく秋田雨雀氏等の刺戟をうけて發展大正末期頃から昭和の初にかけてエス運動はさかんになり一時は青森縣エス聯盟も出來て毎年各地に大會を開いた程であつたが會の有力者が思想關係の運動にも働いたため彈壓が強く最近數年は全く火の消えた様になつてしまつてゐた。それをこの一兩年前から葛西氏が再興に着手され前のエス會とは關係のない新しい中立的の會をもたれることになり種々運動されてゐたが北海道大會と自分の同地訪問の報に刺戟を受け徹底的に對外宣傳にのりだされたのである。令弟葛西藤三郎氏が之を補佐され比較的古い同志大山、神、小枝の諸氏が葛西氏と共に奮闘されることによりこの五人のガツチリと組あつた力でこゝの運動は今や一大躍進をとげんとしてゐることは我々の括目に値する所である。

### 8月12日 弘前

弘前行は午後なので午前中葛西藤太氏と共に青森運輸事務所を訪問。渡庶務主任に面談エス運動に大いに好意をもたると様願ひした。ついで縣廳にゆき教育課長石田氏に面談。國際語の立場について意見をたゞかはす。市役所に學兵課長を訪問す。つぎに市立高女校長柿崎守忠氏を自宅に訪問。エス語支持をお願いして引あげた。

午後3時20分青森驛發青森の葛西兄弟、大山、神、小枝の五氏と共に汽車で弘前へ向ふ。弘前では晩に普及講演會があることになつてゐたが、之は青森エス會の同志がすべて準備された。弘前には今の所エス會がないので青森の同志が盡力されたのであつた。

午後4時17分弘前着。すぐ弘前新聞社へ挨拶にゆく。同社が講演會の後援をしてくれたのである。ついで會場商工會議所へゆく谷山弘藏氏も來られる。午後7時半頃になつても聴衆は大して來ない。同志は大分集まれたが neesp-isto は二三人位。policano 一人。總勢20人位。

それで講演會をやめ卓を圍んで懇談的に話し合ふことにした。初め希望により自分からエス運動の現状につき話しをなし次に各人の質問をきくことにし種々意見を交換しあふ。

〔出席者中の同志の芳名は〕 青森の五氏の外。谷山弘藏、山本祐一、藤田喜八郎、佐藤邦雄、蝦名健三、橋本宇震、土岐廣、岩井武太郎、古木名眞太郎。以上14氏。

廣島文理科大學の學生の方で最近エス語をやられた方も少しおそく出席された。廣島へ歸られると大いに運動される筈。

弘前には青森と同様元エス會があつたが青森同様彈壓がはげしくて消滅したらしい。同地の高等學校にもエス會があつたがヤツパリ同じ様な理由で學生課の取締が嚴重になり會がやれなくなつたとの事である。

同地の古い同志谷山氏は大正9-10年頃大谷大學在學中から始められた方である。御子さんにもズツとエス語を教へられてゐる熱心さである。

青森エス會が發展すればその中にこの地のエス會も復活する日があらう。

午後9時半頃散會。すぐ驛へかけつけ驛前の旅館に自分のみ止宿。青森の同志は10時35分の終列車で歸られたので驛へ見送る。

### 8月13日 秋田

午前6時30分發の汽車で秋田へ向ふため早朝起床。26分に汽車がつく。今朝は見送りが一人もない。急いで空いた車へのろうとしてゐると眼の前へ、洋裝の令嬢が二人をりて來た。大會の歸り途に函館へよつて二日おくれてやつてきた萬澤、村上の兩嬢である。豫期しなかつたことで驚いてこちらから聲をかける。兩嬢も意外の邂逅にビツクリする。弘前城を見物するために一寸下車するのだとの事。事によると秋田へゆくかもしれぬが村上嬢は大館から東北本線へ出る豫定だがら多分秋田へよらぬだろうとの話であつた。それで東京での再會を約して自分は列車に兩嬢は市内へ出られた。

午前9時53分列車が秋田驛へついた。レヴオ中の記載がまちがつてゐて9時半着となつてゐたので他の方はお歸りになり中田勝造氏だけプラットフォームでおまち下さつてゐた。

さかんに雨が降つてゐる。早速中田氏についてお宅へ自動車でゆく。奥様と御嬢さんとがニコニコとお迎へ下さる。お嬢さんはいつも中田氏のラヂオ放送の時歌をうたはれる方で寫眞で



拜見してゐる。一風呂いたゞいてお晝御飯を御馳走になる。同志清水さんが來られる。

玄關にゴメン下サイといふ婦人の聲。

萬澤さんと村上さんの御二人。早速中田、清水兩氏に紹介。話を聞いてみると秋田を一寸見ると乗越して來たとの事。公園へ見にいつたが雨がヒドイので見物も大してできずこゝへ訪ねて來たのだといふ。しばらく話してゐたが村上嬢の都合で午後2時の汽車に間にあふ様に兩嬢が歸られることになつて二度さよならをする。

午後3時頃中田、清水兩氏と同道雨の中を秋田魁新報社を尋ね日頃の好意を謝しついで秋田縣物産館を見物の後放送局へゆきやはりお禮を申のべる。局の内部を見せていたゞく。

そこから稻福喫茶店へゆく。こゝで懇談會があるのだ。午後6時全部參集。懇談會をもつ。

〔出席者〕 稻葉貞一、佐々木賢治、清水政春、中田勝造。以上4氏。

自分が大正12年に當地をお尋ねした時は割合に活氣があつたことをおぼえてゐる。同志の數も今日よりも多かつた。それらの人々は今はこの土地におられない人が多い。その後この地のエス運動は近藤氏が北海道へゆかれたり他の人々がゐなくなつたりであまり花々しい發展をとげなかつたらしい。最近中田氏が横手からこちらへうつられた時から再興がなされ赤十字病院に居られる稻葉氏の好意で同病院の一室を借りて會合をつゞけて來たとの事。しかしこの頃は集りが悪いので休んでゐるとの事。何とかして *vigla* にしたいと出席の諸君も心配されてゐた。自分の訪問を機會に何とかなつてもらひたいものと思つてゐる。

午後10時過散會の上歸路につく。雨もやんでゐる。

#### 8月14日 盛岡

午前6時秋田驛發の汽車で盛岡へむかふことになる。中田、稻葉兩氏が見送つて下さる。今日は天氣がよい。

横手をへて黒澤尻へ出て東北本線を下つて盛岡へつく。時に午前11時23分。驛頭には井川會長、大川、佐藤、小原氏等が出迎へて下さる。つれだつて自動車で岩手日報社まで來る。同社で日頃の好意を謝して辭去す。公會堂の食堂で歡迎晝餐會を開いて下さる。女子師範の松木氏、盛岡病院の安本嬢も加はり且態々遠くの磐井郡舞川村の伊藤敏夫氏が來られ之に参加されたのは何よりうれしいことであつた。釧路へ來られた山下君苦小牧へ來られた新田、爲家兩君と共に學會々員として態々遠くから來られたのは涙ぐましくうれしいことである。日報社の記者も出席。

晝餐の後種々の雑談。特に新聞記者に宣傳の話をする。當地商業校々長加茂秀雄氏が甲子園野球に生徒と大阪へ行き不在なのは何よりさびしかつた。同氏も遺憾の意を手紙にして大川氏に托してゆかれそれがよみあげられた。自分は加茂氏が十數年前三重縣松阪商業でエス會をもたれてゐた時分からの知り合である。それから井川會長宅へお邪魔する。

午後4時着の汽車で大會からの歸途川崎直一氏來盛の報があつて會員の方々が出迎へにゆかれる。

午後6時半過出迎への人々は川崎氏を名所見物に案内した後井川氏宅へ來られた。

同夜井川氏宅の *esp-a cambro* で懇談會を開く。

〔出席者〕 大川晃、小原小二、佐藤忠孝、松木慎吾、安本靜江、井川靜、伊藤敏夫、川崎直一。以上8氏。

大正12年頃はしつかりしたエス會といふものがなかつた。尤も同志はゐた。岩手日報の川村氏の如き中學の神取氏の如きそれである。今日は兩氏ともこの土地には居られない。その後數年はあまりふるはなかつた様であるが現在のエス會が誕生するに及んで活潑な活動を開始するに到り機關誌の發行、ザ博士浮彫の發賣等に活躍全國中にその活躍振を認められるに到つた。同會は會長井川氏(耳鼻咽喉科醫)の下に大川、佐藤、松木、小原等の人々が働き古い同志商業校長加茂氏も之に協力されてゐる。

同夜は川崎君と井川氏のお部屋で休ませてもらふ。

#### 8月15日 仙臺

井川氏宅から自動車で送つてもらひ川崎氏と共に午前9時30分發の汽車で仙臺へ向ふ。同志數名が見送つて下さる。

列車に入ると折よく大會からの歸途にある東京の大崎和夫氏名古屋の竹中治助氏がのつてゐ



る。盛岡の人々にも紹介する。發車後座席があいて四人が一團になつてゆかいに議論しあふ。

午後 0 時 39 分仙臺驛へつく。大崎、竹中兩氏は東京へ直行されるので別れ川崎君と二人で下車。菊澤、菅原、大友、大泉、島貫嬢、村上嬢等々の同志が出迎へて下さる。菊澤夫人も坊ちゃんをつれて來られ荷物をお宅へもつて歸つて下さつた。川崎君は驛前仙臺ホテルへ宿をとられる。

まづ三越へいつて晝食をなし河北新報社へ行く。同志大泉八郎氏がをられるので非常に好都合。明日の JOHK からの放送演説の一部を同紙學藝欄にのせることを學藝部へ交渉して下さる。

一方放送局の方もぜひ今日中に演説草稿を呈出してもらひたい。それは監督官廳たる逓信局の希望との事に晩の懇談會までの三、四時間を川崎君の仙臺ホテルの一室をお借してとにかく書きあげる事にする。

河北新報の方のは所持原稿を轉寫するだけでよいので島貫嬢に願ひする。菅原氏も後から手傳ひに來られる。自分は放送の方の原稿をかく。やつと 6 時半頃に出來上る。

いそいで島貫さんのよんで下さつた自動車で川崎菅原氏と會場明治製菓へかけつける。

同志が澤山集つてをられる。學會の現状をお話しする。川崎君と自分が大會の話をする。あとで皆さんと意見を交換。仙臺での會合の復活につき大友氏から熱烈な希望等があつた。

鈴木天生君のエス演説があつた。同君は故鈴木北夫氏の御令弟である。令兄の遺志をついで大いにやつて下さるだろう。

〔出席者〕 長島正一、菊澤季雄、石田六郎、柳橋元利、大友信太郎、成田米四、勝又照子、眞壁良治、前田重作、雁部敏男、鈴木天生、天童多喜男、遠藤祐廣、菅原慶一、庄司うめの、川崎直一。以上 16 氏。

午後 9 時半頃散會。菊澤氏宅へむかふ。とめていたゞく。菊澤氏御夫妻は自分と同郷故話がつきない。

仙臺のエス運動については大して書く必要がないが大正 10 年學會から宣傳旅行隊の訪問の時は武藤氏父子が中心にエス語をやつてをられたが大正 12 年自分等が訪問した時は仙臺エス會が出來武藤氏の外萱場氏その他熱心な人が相當多く。東北帝大二高の學生の間にも同志が多かつた。菊澤氏もその時代學生で同志だつた。大正 13 年には日本エス大會がこゝに招待された。この時は實に大變なさはぎ様だつた。

その後一時衰へた。武藤氏が當地を去られた。菊澤氏や吉田松一氏(滿洲)等が之をもちこたへて來た。そして桑原(大阪)、金子(名古屋)等の人々が大學在學中やはりこの地の運動をもちたて大いに力づよくそだてあげた。島貫(東京)、村上(横濱)、庄司等の諸嬢も輩出した。しかし桑原、金子、島貫、村上等の人々が去られ又同志中より赤化事件關係者が出るに及んで新聞のとばしたデマのため一時全く不振。唯菅原氏等が熱心に法燈をつがれた。しかし最近再び活氣をとりもどしてきた。仙鐵エス會長だつた平野博士が異郷でなくなられたのは鐵道關係者への大打撃だつた。二年前放送局へ猪川氏が前橋から來られたことは當地同志の大きなよろこびである。當地にはこの外土井晚翠氏夫妻、松隈博士等の知名の同志があるのは大きな強味である。

## 8 月 16 日 郡山

午前 11 時から 30 分間仙臺中央放送局から「我國へエス語が入つてきた經路」といふ演題で話した。前半にエス語の現在普及狀態をとき後半に本論をのべたので一寸時間がたらず 4 分半超過。(尤も前の講演者が 1 分位こちらの時間へくひこんだ。)次の講演がなかつたので幸ひにきられずにすんだ。

放送をすませて控室へもどると當日鹽竈のボートレース實況放送でお忙しい中を態々來て下さつた放送部長猪川城氏におあひする。同氏が我等の熱心な同志で放送協會部内にあつて常に幹部連にエス語に對する favoreco をもたせる様終始御努力下さつてゐることはどなたも御承知の事である。今度の放送も同氏の御好意によつてできたことは云ふ迄もない。自分の今度の旅行にあたつて放送については函館(高桑氏松樹氏御盡力)でも札幌(専ら坂本氏御盡力)でも同志が御盡力下さつたがすべて當局の無理解から放送不可能であつた。秋田は favora だつたが他の催のため不可能であつた。尤も秋田局では JOHK からの自分の話の放送を中繼してくれた。



鹽竈へゆかれる猪川氏が自動車で驛へ送つて下さる。午後 0 時 20 分發の汽車で最終の訪問地郡山へ向ふ。

午後 4 時 09 分郡山着。澤栗氏が出迎へてくれる。驛前へ出ると小田島氏がかけて來られる。某喫茶店の階上ですぐみながら他の人の來るのをまつてゐる。

午後 6 時過に壽福食堂へ行き懇談會をもつ。

〔出席者〕 小田島森良、澤栗重雄、梅川延治、曾部健梧。以上 4 氏。

澤栗氏は鐵道人故時々東京へ出掛けて來られる熱心な同志。鐵道エス會を背負つてをられる方。小田島氏は urbanoj の會のため奮闘され郡山エス協會をつくつてをられる方。他の御二人とも熱心な鐵道人。

當地のエス界はまだ若い。今後の發展が最もものぞましい。若い澤栗、小田島氏等の手で大きくそだてあげられることをのぞんでやまない。

午後 11 時 2 分發の列車で同志に見送られて歸京の途につく。

8 月 17 日 午前 4 時 58 分上野驛着。二十四日に亘る北海道東北旅行も無事終了した。

\*

\*

\*

\*

大正 12 年 5-6 月學會宣傳旅行隊の一員として東北及北海道を旅した自分は 13 年後の今日殆んど同じ様な旅程を旅して無量の感慨にうたれる。13 年前と今日。旅行の目的もちがふ併し兩者を比較してみてもエス運動の進歩には格段の相違が見出される。人數も多くなつたし技術の進歩も認められる。併しまだ何といつても樂觀は許されない。もつともつと我々みんながふんばらねばならないと思ふ。まだまだ序の口だ。小成に安んじてはならぬ。お互に大いに努力しようぢやありませんか。

## 北海道及東北地方同志各位へ

### 感 謝

先般當會特使として書記長岡本好次を貴地へ派遣の節、種々御配慮賜りました各位に厚く御禮申上ます。猶御多用中にも拘らず懇談會へ御出席賜りました各位に衷心より感謝致します。今後ともエス運動の爲御盡力の段御願ひ申上ます。

財團 日本エスペラント學會  
法人

### 御 禮

學會特使として貴地旅行中は到る處で同志の皆様の御懇切な歡待を忝うしましたことを深く感謝致します。御自分の御宅へおとめ下さつた方々、旅館の御世話下さつた方々、到着及出發の際御送迎下さつた方々、旅行の聯絡や打合せに努力下さつた方々、その他種々御盡し下さつた各位、御多用中態々懇談會へ御出席下さいました各位に厚く御禮申し上げます。

岡 本 好 次



# Vandalisma Ŝtormo tra Germanujo

## Vandalismo kontraŭ Homa Kulturo

En la pasinta printempo en Germanujo aperis plumbosimila pezega nubego minacanta per proksimiĝanta ŝtormo super niaj kolegoj-esperantistoj. Fine eldoniĝis tirana dekreto de la Vicgvidanto de Germanujo, kiu diras ke "la kreo de internacia miklingvo estas kontraŭa al la fundamentaj principoj de l' naciŝocialismo kaj finfine nur povas esti en la intereso de superŝtataj potencoj". Granda miskompreno sur la bazo de malica antaŭjuĝo! Japana proverbo diras: "Neniam estas venkeblaj la plorkrianta infaneto kaj potenohava regantaĉo". Raciohavantajn oni povas fine konvinki sed potencajn tiranojn neniam. Tamen la dekreto nur koncernis al la membroj de l' naciŝocialista partio. La partianoj vole-nevole devis forlasi nian Esperantujon pro la dekreto. Kompreneble nepartianoj trankvile povis daŭrigi sian laboron por nia sankta afero. Sed domaĝe multaj jam komencis eliri el Germana Esperanto-Asocio kaj ankaŭ el UEA.

Tiam Heroldo de Esperanto sur sia gazeto pledis por Esperanto:

"... Kial Esperanto estas kontraŭa al la principoj de l' naciŝocialismo sed ne kontraŭa al tiuj, ekzemple, de la itala faŝismo? Italio, Pollando, Estonio kaj aliaj utiligas Esperanton ĝuste por sia nacia propagando. La itala Propaganda Ministerio, la ŝtata Propaganda Oficejo de Estonio mem disponigas la materialon por la Esperanto-radio-dissendoj. ..."

G E A havis sian 25-an Jarkunvenon en Wajmaro (Weimar) kun multaj partoprenantoj, kiuj serioze priparolis pri la sorto de l' Asocio kaj unuanime decidis la daŭrigon de l' agado de la Asocio.

Sed la situacio de nia sankta movado en Germanujo tagon post tago plimalboniĝis.

Heroldo de Esperanto anocis sian translokiĝon al Nederlando. Ni, alilandaj esperantistoj, kun maltrankvilo rigardadis la nubegon super la lando.

Post la apero de la 27-a numero (5-an de julio) Heroldo abrupte ĉesis eliri. Tio plimulte premis nian koron. Fine venis informoj pri Germanujo el diversaj landoj. Ni represu ĉi-sube kelkajn informojn el kelkaj esp. gazetoj:

### "Heroldo de Esperanto" ĉesis...

Ni ricevis konata ĉiusemajna Esperantogazeto "Heroldo de Esp.", kiu havi grandajn meritojn en la kreskigo de la postmilita Esperanto-movado, devis ĉisigi sian aperadon, ĉar nova dekreto de la germana registaro (la eldonejo de "Heroldo" estis en Kolonjo) malpermesis ĉiun publikan laboron por Esperanto.

(El "*La Praktiko*")

**Heroldo de Esperanto** Je nia bedaŭro ni devas komuniki ke fine okazis tio, pri kio nederlandaj ĵurnaloj jam antaŭ longe skribis: Heroldo de Esperanto devis ĉesigi sian aperadon.

Per nova dekreto, en Germanujo nun estas ĉesigita ĉia publika laboro por Esperanto.

Por ke la Esperantistaro ne estu tro longe sen sia kutima informilo, Nederlanda Esperanto-Centro provizore eldonos anstataŭan gazeton, kiu estos liverata al ĉiuj ĝisnunaj abonantoj de Heroldo. Pli detalajn informojn la legantoj trovos en la unua numero de la nova gazeto.

(el "*Nederlanda Esperantisto*")



**La mortiga dekreto** Ni legis en "Heroldo" kaj pluraj aliaj gazetoj kun kontento, ke la delegitoj ĉe la 25-a kongreso de Germana Esperanto-Asocio (en Vajmaro) decidis *unuvoĉe* daŭrigi la Asocion; estis elektata nova asociestro kaj Berlino kiel venontjara kongresurbo. Tiu unuanima decido montris la volon al vivo kaj agado, malgraŭ ĉio, de l' germ. esperantistaro. Bedaŭrinde ..... esperantistoj projektas, sed Hitler direktas. Sekve, antaŭ kelkaj tagoj la gvidanto de G. E. A. ricevis la dekreton, ke *ĉiuj germanaj asocioj artlingvaj kaj iliaj grupoj devas likvidiĝi ĝis la 15. 7. 36, se ili emas eviti severan devigon. Post la 15. 7. ĉiu agado por iu artlingva organizo, do ankaŭ ĉiu laboro por DEB,\* NDEB,\*\* Komer. E. Unio \*\*\* k UEA estas malpermesata.* (El "Sennaciulo")

**Germanujo** Novan baton ricevis nia movado en Germanujo. Malgraŭ la decido ĉe la pentekosta kongreso en Weimar, daŭrigi la agadon de G. E. A., venis registara ordono, kiu malpermesas al germanaj ŝtatanoj membrecon de organizaĵoj celantaj la disvastigon de artefarita lingvo. Laŭ tiu ordono, G. E. A. (Deutscher Esperanto-Bund e. V.) devis likvidiĝi antaŭ la mezo de julio, 1936. Ankaŭ sekvas el tio ĉi, ke U. E. A. de nun havas nek membrojn nek delegitojn en Germanujo.

Tiu ĉi malpermeso de organizita Esperantismo estas unika en la duonjarcento de nia historio. Ni atentigas, tamen, ke

\*) Deutscher Esperanto-Bund = GEA (fondita en 1906)

\*\*) Neue Deutsche Esp.-Bewegung = Nova Germana Esp.-Movado (fondita en 1933, por lakaŭti hebreojn el sia rondo por flati al la nacisocialista partio)

\*\*\*) Komerca Esperanto-Unio (fondita en 1922)

**la privata lernado kaj uzado de Esperanto mem ne estas malpermesita.**

Al niaj samideanoj en Germanujo ni esprimas nian tutkoran kunsenton en tiuj ĉi malfacilaj tagoj, kaj esperas, ke ili trovos la kuraĝon por konservi sian fidelecon al nia ideo, ĝis la tago, kiam la ĉielo denove sennubiĝos. Intertempe ni publikigas ilian peton, ke Esperantistoj ekster Germanujo sin detenu de iu agado, kiu povas malfaciligi iliajn klopodojn.

(El "The British Esperantist")

La supre represitaj informoj elokvente al ni montras ke en la komenco de la lasta julio aperis nova dekreto de l' registaro malpermesanta publikan laboron por Esperanto.

Ŝtormo! Ŝtormo! Fine venis ŝtormo! Kia tiraneca dekreto vandalisma! Tia vandalisman dekreton neniam spertis nia esperanta movado dum la duonjarcento, kiun travivis nia Esperanto. Eĉ la cara regado despotisma ne malpermesis publikan laboron por Esperanto. (Ĝi nur malpermesis la importon de la esperanta gazeto "Esperantisto" pro la aperigo de la verko de Tolstoj.)

Laŭ la sciigo de "the British Esperantist" la privata lernado kaj uzado de Esperanto ne estis malpermesita, kaj do niaj kolegoj-esperantistoj en Germanujo povos ankoraŭ daŭrigi sian studon de Esperanto en estonteco. Ni esperas ke ili nepre daŭrigu sian studon kaj pli profunde studu nian karan lingvon kaj se ili havos iom da tempo, ili traduku valorajn verkojn en Esperanton.

En la tempo, kiam oni povas propagandi Esperanton, vole-nevole oni devas uzi parton de sia energio por la laboro de l' disvastigo de nia lingvo, sed en la tempo, kiam oni estas malpermesita propagandi Esperanton aŭ fondi grupon, vole-nevole oni povas trankvile nur studadi Esperanton



kaj pliprofundigi sian konon pri ĝi.

Ne ĉiam daŭras malbona vetero, ne ĉiam daŭras homa sufero!

Nun ŝtormas, nun uraganas. Kun pacienco germanaj amikoj nur atendu la estontan serenigon de l' vetero. Tio estas la sola rimedo restanta ĉe ili.

Nia Majstro diris en sia poemo "La Vojo":

Kaj nin ne timigas la noktaj fantomoj,  
Nek batoj de l' sorto, nek moko de l'  
homoj,

Ĉar klara kaj rekta kaj tre difinita  
Ĝi estas, la voj' elektita.

"Ho, ĉesu!" mokante la homoj admonas,—

"Ne ĉesu, ne ĉesu!" en kor' al mi sonas:

"Obstine antaŭen! La nepoj vin benos,  
Se vi pacience eltenos."

Se longa sekeco aŭ ventoj subitaj  
Velkantajn foliojn deŝiras,  
Ni dankas la venton, kaj, repurigitaj,  
Ni forton pli freŝan akiras,  
Ne mortos jam nia bravega anaro,  
Ĝin jam ne timigos la vento, nek staro,  
Obstine ĝi paŝas provita, hardita,  
Al cel' unu fojon signita!

Iam venos la tempo, kiam la serena vetero milde ridetos al la samideanoj en Germanujo. Tion ni kredas en la koro. Ĉi tie ni esprimas nian elkoran simpatian al ili, kiujn la dekreto ĵetis en malesperan abismon.

La sola semajna gazeto esperantista "Heroldo de Esperanto" devis malaperi el Germanujo pro la dekreto. Sed ĝia sekvananto, ĝia anstataŭanto jam aperis en la 26-a tago de julio en Nederlando. Ĝi estas nomata "Esperanto Triumfonta" kiu estas la malnova nomo de H. d. E.

En la gazeto la redaktoro A. C. van Ingen

skribas:

"Certe mirigis la esperantistaron, ke la semajna gazeto Heroldo de Esperanto post la 27-a numero subite, sen ia antaŭa informo, ĉesis aperi. La kaŭzo estas, kiel ni jam komunikis per aparta cirkulero, ke en Germanujo oni ne plu rajtas publike okupi sin pri Esperanto, kaj do ankaŭ la firmo de Esp. devis likvidiĝi.

Ne volante, ke la Esperantistaro estu sen sia kutima informilo, kaj ne sciante, kiam denove estos eble eldoni Heroldon, Nederlanda Esperanto-Centro decidis preni sur sin la eldonadon de provizora nova organo. Por honori la personon de la eldoninto de Heroldo kaj por montri ke nenio povas ŝanceligi nian konvinkon je la fina venko de nia afero, ni donis al ĝi la nomon Esp. Triumfonta, kiun nomon la semajna gazeto havis en la komenco.

El la fronto de nia sankta batalo estis devigita sin deteni la granda amaso da germanaj samideanoj, kiu formis unu kvaronon de la tuta esperantistaro en la tuta mondo laŭ la statistiko de D-ro Dietterle antaŭ jaroj.

Ni restantaj en la fronto, estu kuraĝaj kaj batalu pli multe ol antaŭe, ĉar ni devas plenumi ne nur la laboron al si donitan, sed ankaŭ la laboron, kiun plenumis antaŭe germanaj samideanoj.

Kiam ili povos reveni al nia fronto por denove batali por nia afero?

Nederlandaj samideanoj jam faris la unuan paŝon pli forte labori ol antaŭe. Bonan ekzemplon ili montris al ni. Ilin ni sekvu! Ni ne plendu, ni ne malĝoju; sed ni nur ekpaŝu pli potence. (J. O.)

*Por ni mem ni povas scii, ke nia laborado estas ankoraŭ tre malfacila kaj eble longe ankoraŭ postuladas de ni ferman paciencon; sed al la publiko ni devas ĉiam montri gajan vizaĝon.*

— Zamenhof. —



# 内外<sup>エス</sup>運動展望

## 新たな暴虐

ドイツでナチス黨員は國際語運動に働くことが禁ぜられたのは今春の事であつた。そのためドイツエス協會から幹部連が退いたのでドイツエス運動の危機がさげられたが Pentekosto の休みにワイマールに開かれた第 25 回ドイツエス大會は新任會頭の下に新しい試練の下に力強く聖戦をつづける覺悟をした。來年はベルリンに第 26 回全國大會を開くことにきめた。しかし何たる暴虐ぞ。或ひはの杞憂が現實の嵐となつた。7 月 15 日限り一切の人工語の團體的活動は禁ぜられた。尤も個人的にエス語を研究し實用するのはよいとの事であるから今後のドイツの同志の主力はエス語をふかくほりさげて研究する方向にむけられ benata tago の來る日をまつであらう。

## 週刊誌 Esp. Triumfonta 生る

### Heroldo de Esp. の後身として

我等の週刊新聞 Heroldo de Esperanto は去る 7 月 5 日付第 27 號 (通算第 888 號) を出したきりで發行不能になつた。和蘭 Rottendam へ移轉の一步手前での彈壓はいたましい。

之に憤起した Nederlanda Esperanto-Centro が Heroldo の後身として Esperanto Triumfonta といふ名前の週刊誌を出すことにきめ 7 月 26 日その第一號を發行した。Heroldo と同じ大さで 4 頁である。

Esp. Triumfonta といふのは Heroldo の舊名である。思ひ出の舊名が復活されたのである。而して Heroldo 誌の復活の日まで ET が之が代理をつとめるわけである。

Heroldo 誌の購讀者へは ET が配布されるわけである。購讀料年 5.4 フロリンであり返信切手では 44 枚である。發行所は Nederlanda Esperanto-Centro, Schiedamsweg 209 B, Rotterdam W. Nederlando, 編輯者は A.C. van Ingen 氏である。詳報は後日にゆづる。

## UEA ロンドン移轉完了

UEA のロンドン移轉についてはスイスの同志から物云ひがつき世界的に投票した結果 ロンドン支持者が 710:191 の絶對多數で勝

利をしめた。それで 7 月上旬移轉を完了した。

1936 年度の年鑑も先般發行された。今後の力強い發展をのぞむ。

新事務所の adreso は 142, High Holborn, London, W.C. 1., Anglujo.

## 波蘭交通省のエス語活用

### 來年のワルソーでの萬國大會の際

來年の第 29 回萬國エス大會がポーランドのワルソーで開かれるので交通省 (Trafik-ministerio) ではエス文のポーランド案内記を出版することになった。

## ブラジル文藝家協會大會のエス語支持

先般ブラジル國リオデジャネイロ市にひらかれた Brazilaj Beletristikaj Akademioj kaj Societoj de Belliteratura Kulturo (文藝家協會聯合の如きものか) の大會に於て二十州から出席の代表者が次の如き決議をした。

『本大會はブラジルの文學作品を國際的に知らせることの利益を考慮し政府が優れた作品が廣くゆきわたれる國語及び國際語エスペラントへの翻譯を援助せんことをのぞむ』。

## 第二回エスペラント夏期大學

豫定の如く第二回夏期大學は 8 月 20 日から一週間に亘つてひらかれた。今度は地方から上京して聴講するものには會費免除の上晝間も課外講義をするといふ地方の人にとって大きな servo をした。地方から來た人は熊本 of 坂崎、本間兩氏。鹿兒島 of 四元氏。滋賀縣 of 楠美氏。宮城縣 of 眞山氏。の五人。

その他聴講十數名。武井氏の如きは一週間會社から休暇をとつて聴講された。

講義は次の如く行はれた

8 月 20 日 エスペラント語學 川崎直一氏  
8 月 21 日〔課外〕エス運動について

高木 弘氏

ザメンホフ研究 岩下順太郎氏

8 月 22 日〔課外〕エス文學研究書解題

三宅史平氏

エス單語學 岡本好次氏

8 月 23 日〔課外〕日曜につき休講

エスペラント科學 前田 勤氏

8 月 24 日〔課外〕  
{エス研究の一方面  
(エス語)車輛について

小坂 狷二氏

エスペラント反譯 中垣虎次郎氏



8 月 25 日〔課外〕エス教授法(エス語)

佐々城 佑氏

エス實用の諸問題 磯崎 巖氏

8 月 26 日〔課外〕國際文化(エス語)

久保貞次郎氏

エスと教育の諸問題 丸山 丈作氏

26日は丸山氏の講義の後久保氏司會で座談會をひらく水曜日例會と合併したので 50 名位にのぼり相當盛會であつた。

## 北陸日々新聞のエス欄

### 同志の協力をのぞむ

富山市で發行の北陸日日新聞に今度エスペラント欄かもたれた。これは從來各地の新聞にのつたエス語欄でなくエス語に關したもののエス語で集めたもの等々をのせるのが主である様である。

これは大變面白い試みと考へる。ついでには原稿が大變入要であるから全国各地同志の協力をもとめてゐる。原稿の長さは 400 字詰 3 枚位でなるべく興味にとんだものを必要とすると。(日本文のこと)。

編輯については富山エス會が大いに助力することになつてをるとの事。原稿は富山局私書函第 28 號富山エス會宛のこと。

## 日米學生會議で大成功

8 月 2 日から 8 日迄東京で開かれた第三

回日米學生會議の文化部(部長久保貞次郎氏)で國際語の問題が取扱はれ又々大成功を収めた。即ち日本學生七八十名米國學生二十名の文化部で將來の用語としてはエス語であるべしといふことが日本の學生より話され米學生の愚問はすべて一蹴され且最後に木村氏がエス語で話し久保氏が之を英譯する demonstracio によつて大成功を収め日米兩方からエス語學習希望者が續出した。

その詳細については次號で紹介する。

## 日佛拳闘試合にエス語

七月中旬横濱入港のフランス東洋艦隊の乗組員と横濱の新日本拳闘協會によつて國民新聞後援の下に 7 月 28 日横濱公園音樂場で日佛拳闘試合が開かれたがこの試合の契約および進行はすべてラモットピケ號乗組の同志 Henri Berteloot 氏と横濱エス協會の會員諸氏が仲介となり、エスペラントによつて行はれた。

## 磯部嬢 Scherer 氏と會話放送

渡米中の磯部幸子嬢は 7 月 1 日からデトロイトで開かれた北米エス大會に出席。日本を代表して挨拶し、つづいて Scherer 氏との會話を放送。大會後も各地から引張風であると。

# 全 國 各 地 報 道

投稿注意:

1. 日本文にて・なるべくハガキで・迅速に・簡単に。
2. 締切大體前月 18 日(18 日以後到着のものものせることあり)。
3. 地方會誌を以て報道に代ふるをえず。
4. 寫眞は裏に必ず何の寫眞かといふ説明記入の事。寫眞は返送せず資料として保存す。

東京 ★矢島英男氏送別會——7 月 24 日 FER 及び TEK 共同主催でこのたび朝鮮鐵道局へ赴任されることになつた矢島英男氏の送別會を新宿白十字堂階上に開く。同氏は FER の最も活動的な同志で FER は勿論東京に於ける同氏のこれまでの活躍された足跡はまことに大きい。今回同氏が突如東京を去られることになつたのは我々同志の等しく惜むところである。午後 6 時より晚餐會、

續いて FER の伊藤氏司會の下に青木氏開會の辭を述べ TEK 代表伊藤(己)氏、學會代表三宅氏、FER 代表小松氏、Argenta Kunsido 代表田畑氏、東洋文史研究所の露木氏淺草エス會代表渡部氏等の挨拶、小坂狷二氏其他數氏の所感あり 9 時 TEK 等々力氏閉會の辭を述べ盛會裡に會を閉じた。閉會後一同記念撮影をする。出席者は 40 餘名。尙矢島氏は 7 月 27 日東京發富士號にて多數同志の“萬歲”喚呼に見送られて任地へ出發された。同席上で高橋肇君の TEK 幹事辭任の申出を承認し新に淺草エス會を代表して渡部秀男君が幹事に推選された。(因に矢島英男氏の住所は大田府本町一丁目一〇三ノ三姫野方)。

★淺草エス會——本誌前號に記載の如く調査リスト完成の爲め全國同志の御援助を願つて居ります。調査用紙は各地方會宛御送りしてありますが用紙不足の場合は本會調査係或は學會宛御一報下されば直ちに御送り申上ます



# 日本エス運動三十周年記念大展覽會開催

京都エス聯盟主催

9月18-20日京都大丸六階に於て

各會の支持をのぞむ

明治39年6月日本エスペラント協會の創立と共に愈々我が國に組織的エス運動が始められて正に30年その長き歴史の頁を繙いて先覺者の開拓した苦難と希望の道を回顧し且つ現今の情勢に鑑みて大々的に宣傳普及を計る目的を以て京都エス聯盟主催の下に上記の通りの大展覽會が開催される。

大丸當事者に於て設備萬端は勿論諸種の點に援助を約束され又連日の炎暑を物ともせず準備に奔走した委員の努力空しからず熱心な同志から展覽資料の出陳申込續々と來りこの計劃は支障なく進行しつつある。出陳品は日本エス運動史を物語る豊富な資料に配するにエス語の現状を示す資料其他を以てをするが

史的資料の博搜を期して委員を各地に特派したので特にこの點に於て期待されてゐる。

尙9月20日(日)午後展覽會場に隣接する會議室に於て「エス運動30年を偲ぶ會」が開催されるがこれは關西在住の諸先覺者を招待して懷舊追憶談を乞ひ以てこの展覽會の意義を更に深からしめんとするものである。幸に各地同志の後援協力を得てこの計劃が成功裡に終ることを得ばその喜びはただ主催者側のみではないと確信する。

以上の記念事業に關する一切の照會は下記へ——京都市御前通り一條上ル甘藷方

京都エス聯盟記念事業委員會

(牛込區喜久井町三四渡部秀男方淺草エス會)

8月21日當會のsalutoを持って大會に参加した原田三馬氏の報告を聴く。出席者20名。

**横濱** ★横濱エス協會——例會は毎週木曜午後7時半より中區住吉町三丁目メ

ッセンヂャーボーイ事務所にて。7月25日佛盤ラモットピケ號の同志アンリイベルトロオ君の歡迎會を開く。出席者20名。8月20日札幌市に於て開催された日本大會にJEA代表として出席された飯田龜代司の土産話を聴く。

★YMCA-Grupo——8月中は金曜を休み火曜のみ19時からクラブ室にて例會を續けてゐる。

★Amikino——毎木曜夜の例會は8月中は休んで新秋の活動に備へることにした。

**盛岡** ★7月19日夜北海道方面へ旅行中の矢島英男氏を驛に出迎ふ。7月31日手術し入院中であつた大川氏退院す。8月7日午後8時札幌大會に向ふ途上の學會鐵道エス會諸氏を驛にて見送る。8月14日岡本特使來盛の記事岩手日報に掲載さる。8月14日岡本特使記事別項参照。

**小樽** ★小樽エス協會——日本大會を目指して5月より早朝會話會を毎朝5時住吉神社境内にて行ふ。量徳寺に於て開催せる婦人講習會(自7-16至7-25)は福田仁一氏を講師とし受講者8名あり成功裡に終つたが引續き毎週一回研究會を持つ事になつた。

8月2日九州飯塚の同志片山政子嬢當市高商に於て開催の英語講習會出席旁々日本大會参加の爲め來樽、大いにエス語で交歓した。(13日夜行で飯塚の同氏花村氏と共に退樽された)8月8日大會には當市より10名参加した。8月11日大會の歸途進藤靜太郎川崎直一兩氏來樽進藤氏は小樽ロータリークラブ例會に出席會長の希望によりエス語にて挨拶し大いに歡迎された。川崎氏は岡崎高橋兩氏と共に手宮の古代文字及び近海郵船支社の日露國境劃定會議室等を見學された。兩氏は12日退樽された。

★小樽佛教エス會——例會は7, 14, 21, 28日毎回出席者8, 9名。霧の中を講讀中。

**帶廣** ★學會帶廣支部——7月中旬佐藤松男氏は旭川、札幌へ長谷川守氏は札幌、小樽へそれぞれ出張し各地エス會を訪問し懇談した。病氣中であつた菅沼副會長も恢復し以前にも増して活躍する事になつた。大會には當會より8名(菅沼、長谷川、沼田、佐藤、池田、黒澤、井上、森本)出席し帶廣市よりの土産物を全出席者に配布した。大會には帶廣市長、市會議長、商工會頭、支廳長等より祝電を發した。8月2, 3兩日は別項特使記事の如く岡本好次先生を迎へた。8月11日原田三馬氏を迎へて懇談會を菅沼氏宅にて開く。第6回北海道大會は旭川に於て開催される事に決定したので第7回大會(昭和13年



度)を再び帯廣市に招致すべく内定した。研究会はザ博士の譯書を用ひる事に決定した。

**旭川** ★旭川エス會——明年の第6回北海道大會を旭川市に招致すべく8月9日北海道大會協議會に木津會長自ら起つて明年の大會を旭川市に於て開催したき旨提案すれば満場一致賛成され決定を見たので直ちに準備委員會を組織した。準備委員長、武田威勢委員、木津義雄、川名正二郎、當摩憲三、竹吉正廣、高宮アイ、吉岡重人、片岸喜幸、松原喜代治、藤田信輝、橋本貞三、工藤朝次郎池田護、第6回大會に關してのお問合せは旭川市一條通7丁目木津義雄方。8月14日木津會長宅にて原田三馬氏を迎へて歡談した。

**札幌** ★札幌エス會——7月13日帯廣佐藤松男氏來札大會に就き森永製菓にて會合す。出席者10名。7月16日小樽福田氏來札。繪葉書文案等に就き會談。出席者佐藤、木村、福田、相澤、浪越。7月21日市會議員井川氏を訪問大會につき援助せらるるやう同氏より市長に話していただく。尙市役所にも再び願書提出した。7月27日市會議員佐藤一雄氏を訪問。大會參加者に對して市電無料バス發行方を依頼したところ同氏多忙にて電氣局長宛の紹介狀をいただく。7月28日學會岡本氏來札。エスペラント運動に關する座談會を明治製菓三階にて開催。(エスペラントの熱心な人だけを招待した)。志文岡本義雄氏、細井未夫氏、福田仁一氏來札出席された。(岡本特使記事詳細は別項參照)。7月30日岡本氏旭川へ向け出發さる。8月4日グランドホテル訪問晚餐會につき協議す。8月5日大會記念展覽會を丸善二階にて催す。夜大會に就き最後の打合せ會をする。出席者約10名。8月8日より10日まで第24回日本大會。參加約150名。展覽會は平均300名位づつ9日に開催した普及講演會には約200名の出席者あつた。8月12日大會直後の雰圍氣を利用し早速初等講習會を開催。講師高瀬正榮氏。出席者45名。25日に終了の豫定。

**苫小牧** ★苫小牧エス會——7月25日岡垣、室鐵エス會訪問、三崎、中野の諸氏と會見特使の來訪に關し種々打合せを爲す。8月3日19時より岡垣宅に會合特使歡迎準備に就き協議す。出席者鈴木、田中岡垣。5日岡垣志文の岡本氏を訪ひ偶々室蘭に向ふ岡本特使を驛に見送り大會當日の受付等に關し打合せを爲す。8月6日岡本特使記事別項參照。7日12時8分、特使、渡部氏

御夫妻新田(三川)菅原岡垣一行6名一路大會開催地札幌に向ふ。8日當會より鈴木、川原田、野町(工業教諭)菅原、奈良、岡垣の諸氏大會に参加す。12日帯廣エス會黒澤嬢大會歸途當地訪問。19時より田中氏宅にて鈴木、田中の兩氏と共に懇談。13日歸省中の札幌エス會藤本氏、黒澤嬢と共に當會訪問當會より鈴木岡垣の2名出席。13時より岡垣宅にて會談す。

**金澤** ★金澤エス會——6月18日新しい同志として活躍を期待されて居た金森秀三氏は本日の木曜例會を最後とし福井縣三國町瀧谷へ轉居された。6月25日坪田、清水、榊野氏等相次いで失つたKEGはその再



金澤エス會由比氏送別會

左より〔前列〕菅野、阿閉、吉川、瀨川、由比、塚本、野村、岩田。〔中列〕角、松田、近藤、富岡、田中、伊藤、塚本夫人、永島、森、矢徳、荒木、平石、木津、中上、前田、櫛木、西村の諸氏諸嬢

建の途上に突如由比忠之進氏を名古屋へ送る事になつた。全く思ひ掛けぬ事で啞然たらざるを得ない。尾張町森八にて送別會開催富山縣より野村(理)岩田兩氏の出席を得、24名の盛會であつた。7月2日から海神丸の輪讀を始めてゐる。8月13日甲府の立石隆氏、15日飯塚の花村秋義、片山政子兩氏の訪問を受く。從來の例會は毎週木曜であつたが都合に依り月曜に変更する事になつた。會場は石浦町石川貯蓄銀行。

**富山** ★富山エス會——マルダ・クンシード2回休講。8月15日渡部隆志氏より大會の感想を聴く。少女部では6名熱心に週1回研究してゐる。大いに將來を期待されてゐる。指導者は五艘、岩杉、馬場の3氏で顧問に渡部氏が就いた。

**静岡** 静岡へ轉住された榊野助次郎氏が綠星俱樂部主催のエス講習の講師として8月21日から30日に亘つて指導した。



講習會員は 46 名 (内女子 8 名)。これを二組に分ち外國語をしらぬ者を乙組とし (8 名)。甲組を榊野助次郎氏乙組は飯塚傳太郎氏指導さる。

## 岐阜

★岐阜エス會——毎週木曜 19 時より海神丸の輪讀會を持つてゐる。7 月 20 日京都の山田克夫氏來訪。7 月 25 日名古屋の由比忠之進氏來訪。氏を迎へて板橋、清、浦野、柳原の諸兄と共に夕食を共にす。7 月 26 日京都の木村金松氏來訪長良川畔の煙火大會を見物す。

## 四日市

★四日市エス會——7 月 25 日吉岡福田兩氏桑名エス會訪問。29 日名古屋の由比忠之進氏來訪。懇談會を開く。8 月 5 日吉岡登良夫氏北勢エス聯盟代表として大會出席の爲め出發す。13 日松代エス會の栗林氏來訪。16 日大會の報告座談會を開く。同日桑名の岡田氏來訪。

## 松代

★松代エス會——自 10. 6. 14. 至 7. 5. 松代商業生講習。自 10. 9. 28 至

11. 11. 同。自 10. 10. 23. 至 12. 8 東荒町少年少女早起講習開催。自 10. 11. 19 至 12. 3. 松代郵便局内に於て初等講習を開く。10. 12. 16. 高木宅氏にてザ祭を開く。自 11. 5. 18. 至 8. 12. A 組そ自 11. 6. 17. 至 8. 12. B 組をそれぞれ初等講習を行ふ。

## 大阪

★新星會——研究會毎週土曜テキストは *Printempo en la aŭtuno* を使用。毎月 20 日に開かれてゐた會話會は當分中止。7 月 25 日兒島竹内、山本、山口四氏和歌山訪問。新築地明治屋食堂三階にて懇談會を開く。古い同志として知られてゐる山野井諄郎氏の歓迎の辭あり種々歡談した。

## 神戸

★永文堂ロンド——8 月中旬より從來週 3 回の會合を次の如く變更した。毎月曜ザ讀本並作文指導 (永井) 初歩文法 (岡部) 毎水曜イソツプ講義 (岡部) 何れも 19 時半より諸兄姉の參加歡迎。

## 宮崎

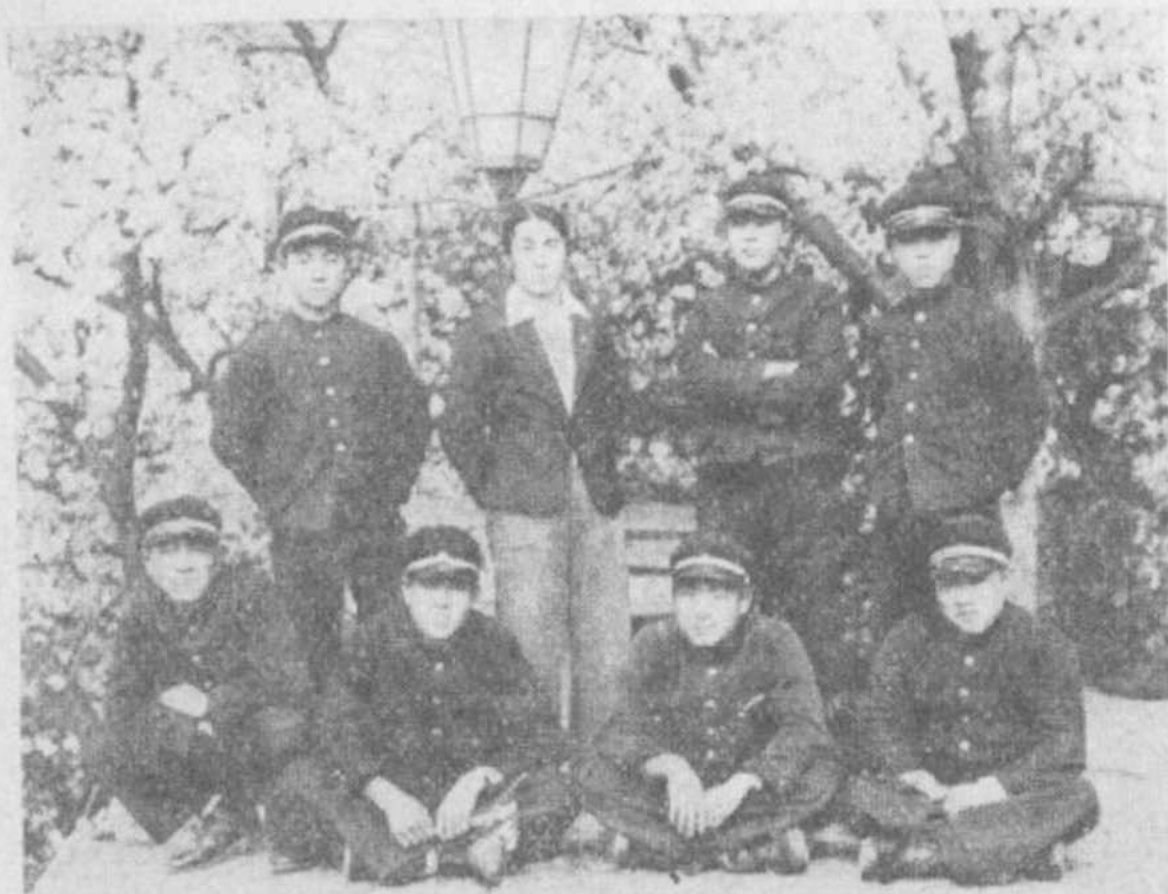
★宮崎エス會——例年 8 月は休講の處今年は酷暑を征服してイヴンの馬鹿を讀む事にした。初講もエゾーボを續ける。

## 熊本

★學會熊本支部——7 月 25 日初等講習終了。9 月より中等講習を開く豫定。木曜例會はアンデルセンの *Fabelo I* に決定。産婆養成所の講習は 9 月 10 日迄休み、夏季休暇を利用して、坂崎、本田兩氏は京都名古屋のエス會を訪問後學會の夏期大學に出席、歸途大阪神戸別府の各地方會を視察する筈。

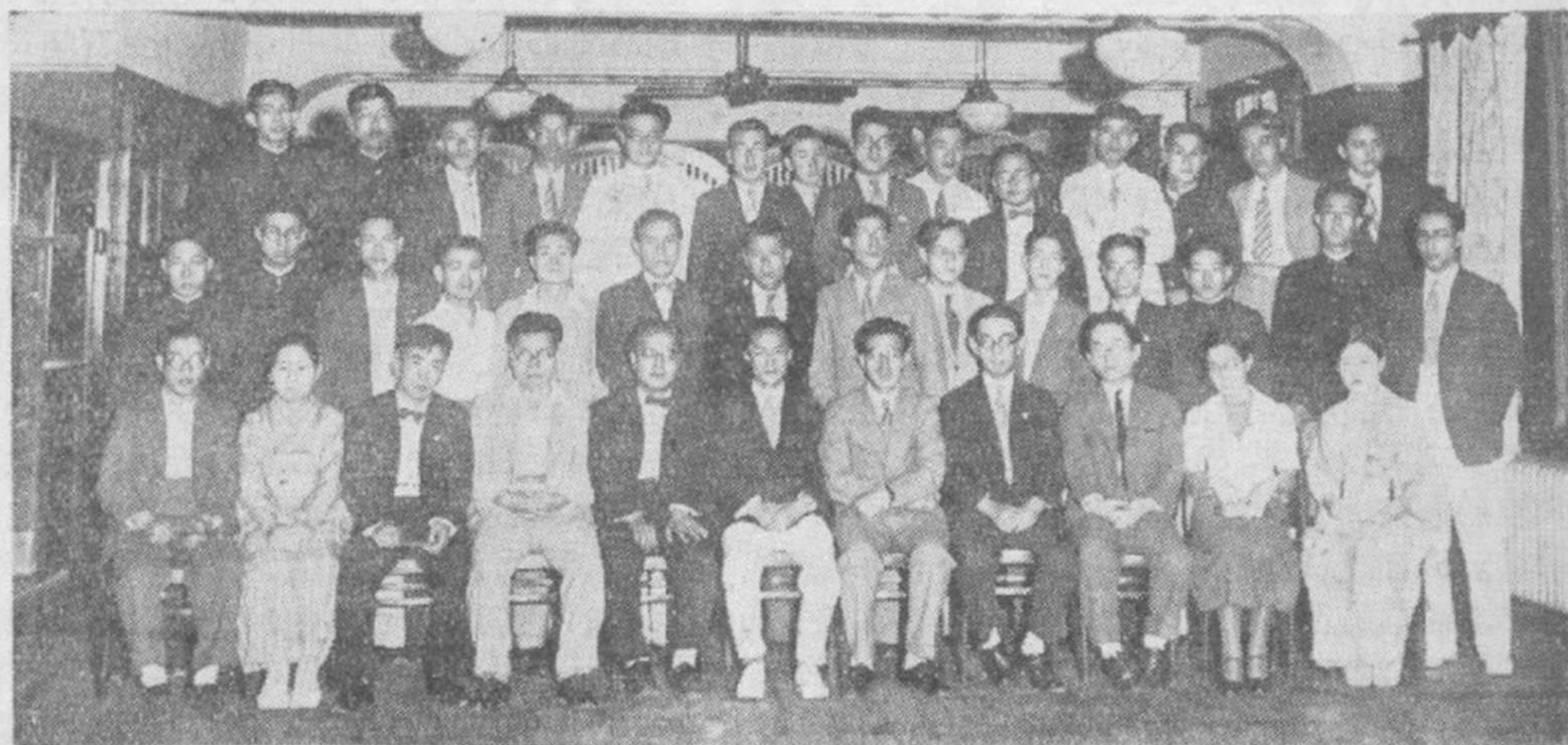
## 大連

★大連エス會——毎週火曜例會出席者 10 名内外。用書北歐編を使用。古い同志である川上虎男氏の出席は若き人達へよき感銘と刺戟を與へてゐる。アンデルセンの童話は寛太郎氏の名講義は會員の研究心を鼓舞してゐる。自 8. 1. 至 8. 16. 初等講



松代商業エス會花見

左より〔前列〕宮澤、成澤、堀内、窪田。〔後列〕山本、栗林 (講師)、有賀、田中の諸氏



東京矢島英男氏送別會



習開催。講師大谷正一氏。なほ7月16日より北尾虎男氏指導の下に埠頭ビル内に初等講習を開催中。大谷氏の手許で立案中の「満鐵エス聯盟規約」は近く決定の見込。8月4日奉天醫大の安倍博士來連し同氏の迎歡會と星博士謝恩晚餐會をロシヤ料理店ビクトリヤに於て開催種々有益な話があつた。出席者11名。

緑化組報——詳細は8月號「會員の聲」欄を御覽下さい。

會員 高橋菊藏(東京)、渡部秀男(東京)、原田三馬(東京)、阿部英二郎(大阪)、佐藤松男(帶廣)、本田正男(熊本)、木津義雄(旭川)、岡垣千一郎(苫小牧)、竹中治助(名古屋)。

### Anonceto

#### « Orienta Kulturo »

東洋文史研究所發行、全エス文四六判季刊印刷鮮明、7月創刊以來大好評、世界文化の指導原理を東洋文化に見出さんとするにある。廣く國內同志の支持を要求する。既刊 No. 1 一部 30 錢 下 2 錢

學會取次

學會水曜例會 9月16日(第三水曜)は岡本氏の「晝夜用心記の中の一挿話の rerakontado (附歌舞伎の起源)」と云ふエス語でのお話があります。來聽歡迎。

Argenta Kunsido 七月末以來臨時會場を移轉して居りましたが愈々改裝成り従前通り9月より銀座三丁目明治製菓階上に會合する事になりました。

感謝 私の個人的の災害に對し大會 ekskurso の際に御高配下されし同志諸兄姉に心から感謝致します——相澤治雄

### 新聞雑誌とエス

- ★讀賣新聞(8月14日)——太平洋に美はしの橋——として磯部嬢の滯米動靜の報道記事。
- ★東京朝日新聞(8月14日)——女子使節磯部さん米國で大持て——報道記事。
- ★大阪朝日新聞(7月13日)——青年日本“舌の使節”大阪の同志池川清氏が埃都に於て開催の夏季大學での講演を報道してゐる。
- ★臺灣日日新聞(7月5日)——エスペラントを語る——誕生三十年を記念して——三宅史平氏。
- ★釜山日報(7月2日)——同上。

- ★滿洲日日新聞(6月30日)——同上。
- ★東京朝日新聞(7月15日)——學會主催夏期初講記事。
- ★大阪朝日新聞(8月14日)——大阪エス會主催中等講習記事。
- ★函館毎日新聞(7月15日)——岡本學會特使記事。
- ★小樽新聞(7月27日)——同上。
- ★北海タイムス(8月2日)——同上。
- ★十勝新聞(8月4日)——同上。
- ★東奥日報(7月31日)——同上。
- ★河北新報(8月2日青森版)——同上。
- ★河北新報(8月15日)——同上。
- ★河北新報(8月16日)——同上。
- ★東奥日報(8月12日)——同上。
- ★弘前新聞(8月12日)——同上。
- ★東京朝日新聞(8月7日北海道樺太版)——日本大會記事。
- ★北海タイムス(7月27日)——同上。
- ★北海タイムス(8月5日)——同上。
- ★北海タイムス(8月9日)——同上。
- ★北海タイムス(8月10日)——同上。
- ★小樽新聞(8月9日)——同上。
- ★小樽新聞(8月9日市内版)——同上。
- ★小樽新聞(8月10日)——同上。
- ★神月新聞(7月25日)——“貴國の一票”所望としてオリンピック招致檄文に就ての記事。
- ★大阪朝日新聞(8月11日京都版)——同上。
- ★函館毎日新聞(7月17日)——同上。
- ★函館毎日新聞(7月17日)——イタリ—鐵道省のエス語文の案内記紹介記事。
- ★東奥日報(8月19日)——弘前市の谷山弘藏氏のエス生活を寫眞入りで紹介。
- ★東京朝日新聞(8月1日鐵筆欄)——「新切手三題」の中にエス語に就て言及。
- ★大阪朝日新聞(7月12日名古屋市版)——名古屋市長大岩氏の漫畫入りで市長の署名入りの手紙を紹介。
- ★小樽新聞(7月19日)——躍進日本とエス語の學習——藤川哲藏氏。
- ★福岡日日新聞(7月12日)——久留米エス會主催萬國學童スケッチ展を寫眞入りで紹介。
- ★大阪朝日新聞(8月10日)——次の東京オリンピック大會にはエス語を——の運動にとりかかると報じてゐる。
- ★中外商業新報(7月16日)——英語は國際語か——大石和三郎氏。
- ★日米學生會議準備報告(7月29日)——エス語こそ會議の公用語——大石和三郎氏。



- ★新興佛教新聞 (8 月 1 日)——ザ博士を偲ぶ——宮本統行氏。
- ★無線時事 (8 月 7 日海上版)——お嬢さんのエス語研究熱。
- ★大阪朝日新聞 (7 月 6 日)——エルサレムへ紙芝居巡禮として小野一良君を紹介。
- ★長野縣民新聞 (7 月 31 日 8 月 1, 2, 3, 5, 6, 7, 8 日)——人造國際補助語の問題——大野禮氏。
- ★無線通信 (7 月號)——エス・グループ結成の提唱——小推尾豊氏。
- ★民謡作品 (7 號, 8 號)——民謡エス譯——松本冷鹿氏。
- ★眞人道 (第 430 號)——エス語で世界相手の新聞を發行——井伏太郎氏。
- ★岩尾根 (創刊號)——表紙に La Roka Montodorso の titolo を有す。
- ★地理學 (8 月號)——エスペラント新刊二冊を田口龍雄氏紹介。

### 地方會機關誌その他

- ★La Fervojisto (東京) (57 號) 菊判 14 頁。車輛術語 [6] (根本) La laborista komitato de Fervojo (伊藤)。
- ★La Fervojisto (東京) (58 號) 菊判 14 頁 Rememoro (大庭)、Granda perdo en Sendai (石田)。
- ★A.E.S. (淺草) (2 號) 菊判 10 頁、調査統計表、綠林漫録 (原田)。
- ★Semanto (宮崎) (37 號) 菊判 20 頁、Judoj

en Polujo (川崎)。

- ★Kure-Esperanto (吳) (創刊號) 菊判 36 頁發刊の辭 (矢野)、我等の使命 (Y.Y.) 青年同志の奮起を促す (平川)、感激斷片 (亮月)、山口縣の田舎の小學校にエス語學習の思出 (近藤)、吳エス會の今日迄 (矢野)、Nederlando birdfluge!! (Petro J. Sigon)、Rememoro al S-ro Murakami (矢野)、La Kolĉeno (Oŭa)。
- ★國際語研究 (東京) (16 號) 菊判 70 頁、言語運動の新しい方向 (高木)。
- ★Forta Voko (富山) (8 月號) 14 頁、Bonzo kaj liaj disĉiploj (松田)。
- ★La Ora Delfeno (名古屋) (4 號) 菊判 18 頁、Revuo pri Literaturo sur Poŝt-markoj (川合)、Malfeliĉa Homo (竹中)。
- ★Verda Letero (神戸) (16 號)。
- ★大屋エス文庫月報 (神戸) (16 號)。
- ★Eŝo (岸和田) (31 號)、Nia intenco。
- ★Nia Tendaro (大阪帝大醫學部) 第三號。Vitamino en terapio (俣野)、Frudiagnozoj de ĉefaj infektaj malsanoj (岡)、Steroloj kaj Sekshormonoj (野木)、Kian rilaton la okulaj malsanoj havas kun la tutkorpaj (池田)、Unu kazo de la hereda ataksio (岡)、Pri mia religio (中西)、La scienca esplorado de la mokskaŭterizo (片山) 四六倍版 103 頁尨大なもの。全部エス文タイプライター謄寫。  
[殘部ある由希望の向へは實費 30 錢添へ大阪帝大醫學部エスペラント會宛申込れよ。]

## 編輯後記

★7 月 24 日出發北海道を旅行し大會に出席後東北地方を旅行 8 月 17 日ヤツと歸京しました。各地で歡迎下さった方々にお禮申します。

★旅行からかへつて間もなく夏期大學が始まりますので大急ぎで前以てお願いした講師の方々へ手紙や電話で打あはせをした。地方から上京の人が 5 人になったので晝間の講師もお願いすべくこれも時間割が來まつてゐなくて大まごつきでしたがヤツとどうやらお願いができました。

★夏期大學が 8 月 26 日にすんでやつと暇が出來て本誌の編輯にかかつたのです。原稿は手元に餘る程あるのですが本誌にはどうしても大會の記事と自分の特使としての旅行の報告記事を書かねばならぬので豫想以上に忙しい目をしました。

そして印刷所へまはした處印刷所の方も病

人があつたりして豫定の通り植字がはかどらず、どうやら 9 月 3 日になつて校了のはこびになりました。

それでいつもの月よりも大變おくれることになりましたが右の次第ですからあしからずおゆるし下さい。

★今月の内地報道は主として原田氏にお願いした。ここにお禮申上ます。

★來月號は早くだすつもりでゐます。

## 河合直次郎氏の訃

名古屋の熱心な同志でルーマ・クンシードのそだての親であつた河合直次郎氏は一兩年來御病氣にて療養につとめられてゐたが宿痼のためここ二三ヶ月臥床中との事であつたが去る 8 月 23 日岐阜の實家にて永眠された。ここに深く御遺族に哀悼の意を表したい。



## 新 著 再 著 洋 書

ROMO KAJ ĈIRKAŬAJOJ <sup>☆</sup>

菊半截クロス装二百餘頁・地圖十數葉入  
定價 3 圓 50 錢・送料 6 錢

ローマと、その近郊の案内記。二千七百年の歴史の跡を、數度刷の詳細な大版地圖を多數入れて説明。全文 6 ポイント密組。エスペラント文案内記中の最大豪華篇。

AMO ESTAS PLI FORTA OL MORTO—J. Rainis

菊版 110 ペイヂ・地圖寫眞多數入  
定價 1 圓 60 錢・送料 4 錢

美しくも悲しい愛の悲劇。村の洞穴にまつはる傳説から史實を探り出して描いたラトビアの文豪の傑作。

✓ ASTRONOMIO エスペラント書き通俗天文學

15 錢・送料 2 錢

✓ MULTE PLI LA AMO Thomson

四六判・30 ペイヂ  
定價 25 錢・送料 2 錢

エスペラント原作の三幕笑劇。Literatura Mondo に掲載、非常に好評を博し、讀者多數の希望で單行本にしたもの。

KVARDEK JAROJ

菊版 48 ペイヂ  
定價 30・送料 2 錢

1927 年、エスペラント發表 40 周年紀念として出されたもの。37 年の 50 周年を目前にひかへた時にあたつて特に少部數を限り、この歴史的文獻を再輸入した。

✓ KOMPLETA TRAKTADO pri la PREPOZICIOJ (veraj kaj sajnaj) kaj pri la

[菊半裁 70 頁]

[定價 60 錢・送料 2 錢] ✓ AKUZATIVO per EKZEMPLOJ en Esperanto

Alberto MAIR 著。文法への關心の高つた際、この便利な小著の再輸入の歡迎されることを期待する。

✓ 漢世辭典 [蕭聰編] 紙裝三五判 456 頁・定價 1 圓 50 錢・送料 6 錢

漢語二萬數千語にエスペラント譯を與へたもの。字劃引による漢字配列各見出語には發音が示してあるから便利である。

✓ PLENA VORTARO 唯今到着・4 圓 50 錢・送料 21 錢

財團 法人 日本 エ ス ペ ラ ン ト 學 會

東京市本郷元町一ノ一三

電話小石川 5415 番

振替東京 11325 番



# 秋

## 原作小説

		定價 送料	
		円	銭
Engholm:	HOMOJ SUR LA TERO スエーデンの農村生活を描く土の小説	1.15	6
„	: INFANOJ EN TORENTA スエーデンの小都會の貧しい子供の生活を描く	0.65	4
Bulthuis:	VILA MANO 上 1.65 6	並 1.30	6
„	: JOZEF K EDZINO DE POTIFAR 上 2.80 10	並 1.80	10
エスペラント文學ロマンチスモの雄の傑作二篇			
Forge:	Mr. TOT AĈETAS MIL OKULOJN 上 1.65 6	並 1.30	6
エス文學モダニスモ作品、映畫的テンボの興味			
Luyken:	STRANGA HEREDAJO 上 2.40 10	並 1.80	8
エス文學にすでに古典的位置を占める名作			
Schwartz:	ANNI KAJ MONTMARTRE 1.30 4		
パリの生活を描く輕妙洒脫な筆致			
Szilagyi:	TRANS FABELOCANO 1.05 4		
清新な筆致で辛辣な諷刺を書く大人のための童話			
Weinhengst:	TURSTATO 4 1.15 6		
エスペラント最初のリアリスモ長篇小説			

## 翻譯小説

Prus:	FARANO (全三卷) (學會會員は) クオ・ヴァデスよりおもしろい雄篇。Kabe の古典的名譯	3.00	14
Lägorlef:	GÖSTA BERLING 3.80 21		
北歐文壇の雄 L 女史の處女作。古典的傑作			
Papini:	HISTORIO DE KRISTO 6.50 21		
イタリー文豪の傑作。學會會員には定價一割引			
Conscience:	LEONO DE FLANDRUJO 上 4.20 21	並 3.30	21
フランドル文學史上に輝く大作			
Oppenheim:	ORA ŠTUPARO 3.00 8		
全ヨーロッパ政界を舞臺にアメリカ富豪の從横の活動			



海から 山から 歸つたあなたの  
旺盛な食欲に供へる新鮮な味覺

---

Toscani: RAKONTOJ AL LA GEKNABOJ 1.00 4

美しい物語で正義と隣人愛を童心に訴へる作品集

Ibañes: SANGO KAJ SABLO 2.00 6

南歐情熱の國スペインの近代が生んだ代表的作家の傑作

翻譯戲曲

Ibsen: IMPERIESTRO KAJ GALILEANO  
上 4.20 21 並 3.30 21

イブセンの傑作として知られる史劇, Bulthuis の名譯

Strindberg: PASKO 1.00 4

北歐の巨人ストリンドベリの藝術の香高い作品

詩

DEKDU POETOJ 0.80 4

Literatura Mondo 派新進詩人 8 人の秀作集

Puŝkin: EUGENO ONEGIN 2.00 4

ロシア文學史に一線を劃した歴史的叙事詩

Lermontov: NOVAJ VERSAJOJ 1.20 4

若くして死に仆れた情熱の詩人の名作集

雜

Privart: INTERPOPOLA KONDUTO 0.95 4

唯物史觀で割切れない諸民族關係の觀察

Battaglia: MISTERO DE SANGO 並 1.60 4  
上 2.10 4

遺傳と種族の問題を取扱つた興味深い論文

---

新 Sinclair: PETROLO II 3.00 8

着 現代のアメリカを衝く石油の小説  
第I卷 3.00 8 I, II 同時 5.50 21

財團法人日本エスぺラント學會

東京本郷元町・振替東京11325番



# 財団法人 日本エスペラント學會發行圖書

〔東京市本郷區元町1の13・電話小石川5415番・振替東京11325番〕

エスぺラント捷徑	最新最良の獨習書……上 1.00	並 0.50	各4
エスぺラント講座	外國語を知らぬ人の獨習講義錄……	0.50	4
新撰エス和辭典	語數豊富、譯語正確……上 0.80	並 0.60	各2
新撰エス文手紙の書方	書簡百科辭書の觀、四六判 370 頁……	1.20	8
エスぺラント講習用書……	0.30	2	エスぺラント短期講習書……0.20 2
エスぺラント初等讀本……	0.30	2	エスぺラント中等讀本……0.30 2
エスぺラント童話讀本……	0.20	2	イソップ物語……0.20 2
ザメンホフ讀本	……全3卷、各卷 0.20 (2) 合卷	0.50	4
エスぺラント發音研究	エス語發音上の疑問を氷解す……	0.30	4
エスぺラント文例集	重要語 720 の文例 1.00 (6) カード	1.70	14
新撰和エス辭典	見出語數 6 萬、出典明示、印刷鮮明…	2.50	6
點字エス文法と小辭典……	1.00	6	エスぺラントの鍵……0.05 2
愛の人ザメンホフ	エス語創案者ザ博士の傳記……	0.80	6
リングヴィ・レスポンドイ	ザ博士の言語上の解答を蒐む……	0.50	4
國語の擁護を論じて國際語に及ぶ	黑板博士の歴史的論文其他を収む	0.20	2
言語學と國際語	スピリドヴィツチの新言語理論……	0.70	6
佛說阿彌陀經	梵語からエス譯。漢譯對照……	0.15	2
大學中庸…上 0.75	並 0.60	各4	孝經……0.30 2

## ~~~~~ エスペラント文庫 ~~~~~

- |               |        |                |         |
|---------------|--------|----------------|---------|
| 1. ザメンホフの生涯…… | 0.40 4 | 2. 世界語の歴史……    | 1.50 10 |
| 3. 國際通信の常識……  | 0.50 4 | 4. エスペラントの會話…… | 0.40 2  |

## ~~~~~ エスペラント對譯詳註叢書 ~~~~~

- |                |                  |               |        |
|----------------|------------------|---------------|--------|
| 1. マテオ・ファルコネ…… | 0.30 2           | 4. 代理通譯……     | 0.30 2 |
| 2. ハイネ詩集……     | 0.30 2           | 5. 愛ある處神あり……  | 1.50 6 |
| 3. 魔法使……       | 0.30 2           | 6. レイモント短篇集…… | 0.30 2 |
| エスペラント童話集      | 「エス童話讀本」の對譯脚註篇…… | 0.60 4        |        |

## ~~~~~ エスペラント文藝讀本 ~~~~~

- |            |        |            |        |
|------------|--------|------------|--------|
| 1. スラヴ篇……  | 0.25 2 | 2. フランス篇…… | 0.25 2 |
| 3. 沙翁悲劇篇…… | 0.30 2 | 5. 北歐篇……   | 0.30 2 |

## ~~~~~ エスペラント書き文獻 ~~~~~

- |              |                        |            |        |
|--------------|------------------------|------------|--------|
| 惜みなく愛は奪ふ     | 有島武郎の傑作……上 1.00        | 並 0.75 各4  |        |
| ベルダ・カルト      | 大朝懸賞當選五十年後の社會……        | 1.00 4     |        |
| 中村精男博士遺稿     | 原作科學論文、文學作品の翻譯等……      | 0.70 4     |        |
| 佐々城松榮遺稿集     | 原作對話、翻譯文學等……           | 0.80 4     |        |
| 綠葉集          | 伊井迂著原作詩と詩歌俳句等の翻譯       | 0.80 4     |        |
| 骸骨の舞跳 秋田雨雀…… | 0.40 2                 | 倫敦塔 夏目漱石…… | 0.15 2 |
| ガラシヤ……       | 0.20 2                 | 霧の中 山本有三…… | 0.15 2 |
| 日本民族の起源……    | 0.10 2                 | 日本刀劍鑑……    | 0.15 2 |
| エスペラント年鑑     | エス運動史、地方會名簿、地方會機關誌批判…… | 0.20 2     |        |

——〔詳細内外エス書圖書目錄二錢切手封入お申込み次第送呈〕——



# Baghy - Kalocsay

## エスペラント生活二十五周年紀念

エスペラント文壇の双璧 Baghy と Kalocsay とがエスペランチストとなつて今年は正に第二十五周年、この四分の一世紀の間に、この兩雄の残した足痕は甚だ偉大である。エスペラント文學に志す者は勿論、いやしくもエスペラント運動に熱意を持つ者は少くとも各一冊は求めて、この二巨人の功績に敬意と祝意とを表されよ。(AELA 會員・定價二割引)

### Baghy 著

#### ・ 散 文 ・

✓ Dancu Marioneto 並 0.65 4  
上 0.90 6  
興味深い短篇小説數篇

✓ Hura! 並 3.10 20 上 4.70 21  
人道主義を高調した最大長篇傑作

✓ Migranta Plumo 1.40 4  
短篇小説、戯曲、詩

✓ Printempo en la aŭtuno 1.00 4  
美しい青春物語

✓ Verdaj Donkiĥotoj 2.00 6  
エスペランチストの生活を描く長篇

✓ Viktimoj 並 1.20 6 上 1.60 6  
特 2.00 6  
シベリアの捕虜生活を描く代表的傑作

✓ Sur Sanga Tero 2.00 4  
Viktimoj の續篇、映畫的迫力

✓ Teatra Korbo 0.80 4  
隨筆、感想等の小品集

#### ・ 詩 ・

✓ Pilgrimo 並 0.80 2 上 1.20 4  
美しい長篇詩、劇詩集

✓ Perter la Vivo 並 0.80 4  
上 1.15 6  
愛唱すべき珠玉の短詩集

### Kalocsay 著

#### ・ 原作 詩 ・

✓ Mondo kaj Koro 0.20 2  
處女作品集として歴史的

✓ Streĉita Kordo 並 1.25 6  
上 1.60 6  
胸も高鳴る美しい詩集

✓ Rimportreto 0.45 4  
エス界の花形を槍玉に歌つた詩集

#### ・ 翻譯 詩 ・

✓ Eterna Bukedo 並 2.60 8  
上 3.10 10 特 3.60 10  
各國の代表的大詩人の名作の名譯集

✓ Infero 並 2.50 10 上 2.90 10  
ダンテ神曲の地獄篇。神品的名譯

✓ Romaj Elegioj 0.80 2  
ゲーテの麗麗な愛慾抒情詩

✓ Tragedio de l' Homo 1.00 6  
ハンガリの詩聖 Madach の最大傑作

✓ Johano la Brava 1.00 2  
ハンガリ大詩人 Petöfi の最傑作

#### ・ 研究 書 ・

✓ Lingvo Stilo Formo 並 0.60 4  
上 1.00 4  
造語論韻律論等必讀の文字

Kalocsay 共著 { Plena Gramatiko (各人必讀必備の大文法) 3.10 15  
Waringien { Parnasa Gvidlibro (作詩法、韻府、詩語辭典) 並 1.05 6  
上 1.40 8  
Hekler 著 : Kalocsay 譯 Arthistorio I (ルネツサンスまで) 3.10 21



# エスペラント

## 九月號

一部 20 錢, 送料 5 厘  
月遅見本切手 10 錢

地の果てを行く……………映畫物語  
カスチリヤの魔法使(名著鑑賞)……………萬澤まき子  
エスペラントの言語的發展……………高木弘  
前置詞略解・DE……………小坂狷二  
單文と複文……………倉地治夫  
速記・ローマ字・エスペラント……………松田周次  
あの型この型……………福田正男  
襲ふ熱波……………泉茂雄  
ともだち(自由作文講評)……………中垣虎兒郎  
觀光國策(和文エス譯講評)……………三宅史平  
へろるど・えすぺらんと, 質疑應答等

一年分 2 圓 30 錢, 半年分 1 圓 20 錢

### 學會會員章 純銀臺星形綠色七寶 Esperanto・JEI の文字

新制定會員章は學會會員(一人一個)限り  
背廣用, 安全ピン止各 50 錢, 送料 3 錢

### パンフレット類・

#### エスペラントの概要と學び方

一部 5 厘, 送料八部まで 2 錢, 以上不要

#### エスペラント學習法 20部 5 錢 30部 10 錢

#### 衆議院議員のエス語に関する意見

一部 1 錢, 送料三部まで 2 錢, 十部以上不要

#### ESPERANTO-Grammar and Vocabulary

一部 1 錢, 送料三部まで 2 錢, 以上不要

ちらし 100 枚送料共 20 錢, 500 枚 80 錢

#### 日本風景風俗エハガキ エス文 説明入

フジ, サクラの二組各(六枚入) 18 錢, 送料 2 錢  
二組一揃送料共 33 錢, 五組以上は送料不要  
十組以上のばあひは, 一組送料共 16 錢の割

財團 法人 日本エスペラント學會  
東京本郷元町——振替東京 11325 番

昭和十一年九月十五日發行(毎月一回一日發行)本  
ラ・レヴオ・オリエンタ(エスペラント研究)第十七年第九號

定價廿錢(送料二錢)

編輯印刷  
兼發行人

財團 法人 日本エスペラント學會  
右代賣 大井